

3月26日(金) 午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
13:30	A101 °喜久村智子 ¹ ・大野豪 ¹ ・貴島圭介 ¹ ・榎本雅身 ² ・前門尚美 ³ (沖縄県農業研究センター ¹ ・横浜植物防疫所成田支所 ² ・沖縄県農林水産部 ³) 沖縄県の栽培キクに発生するアザミウマ類とハダニ類の種構成	B101 °小濱継雄 ¹ ・具志堅千尋 ¹ ・山岸正明 ² (沖縄農研センター ¹ ・沖縄防除センター ²) 性成熟したアリモドキゾウムシ雌の繁殖行動に及ぼす温度と日長の影響	C101 °真田幸代 ¹ ・松村正哉 ¹ ・野田博明 ² (九州沖縄農研 ¹ ・生物研 ²) ヒメトビウンカの細胞内共生細菌による性比偏向現象を無効化するオスの地理的分布	D101 °鈴木健 ¹ ・坂本洋典 ¹ ・北本宏子 ¹ ・家藤治幸 ² ・對馬誠也 ¹ ・藤井毅 ¹ (農環研 ¹ ・酒総研 ²) ネプトクワガタ幼虫の中腸から分離した酵母が生産する生分解性プラスチック分解酵素の諸特性と遺伝子構造	E101 °古賀隆一 ¹ ・細川貴弘 ¹ ・菊池義智 ¹ ・深津武馬 ¹ (産総研・ゲノムF) ¹ マルカメムシ必須共生細菌カプセルを構成するタンパク質の探索	F101 °櫻井民人 ¹ (東北農研) ¹ アザミウマの幼虫が向かう！ウイルス感染発病部へ
13:45	A102 °国本佳範 ¹ ・印田清秀 ¹ ・泉本祐樹 ³ ・穂積宏祐 ³ ・小山裕三 ¹ ・矢野栄二 ³ (奈良農総セ ¹ ・北部農林振興事務所 ² ・近大農学部 ³) キクでのナミハダニ黄緑型防除へのケナガカブリダニの利用	B102 °具志堅千尋 ¹ ・小濱継雄 ¹ ・城本啓子 ² ・熊野了州 ² ・栗和田隆 ² (沖縄農研セ ¹ ・琉球産経 ²) 脂溶性色素(Sudan Red 7B)を用いた体内マーキングによるアリモドキゾウムシの交尾行動・分散能力への影響	C102 °河合佐和子 ¹ ・行弘文子 ¹ ・渡部賢司 ¹ ・野田博明 ¹ (農生物研 ¹) 抗生物質処理がツマグロヨコバイの生育と共生微生物の感染に及ぼす影響	D102 °宮本雅章 ¹ ・金井幸男 ¹ ・久保良平 ² ・佐々木正己 ²³ ・小野正人 ²³ (群馬県農技セ・園芸部 ¹ ・玉川大・院・応動昆 ² ・玉川大・ミツバチ科学 ³) ミツバチを利用した半促成ナスの着果技術の開発(第4報) 花香成分の学習と花の認識	E102 °粥川琢巳 ¹ ・清水泰博 ¹ ・外川徹 ¹² ・上田浩人 ³ ・比留間潔 ³ ・三田和英 ¹ ・小滝豊美 ¹ ・篠田徹郎 ¹ (農生研 ¹ ・日大・文理 ² ・弘大 ³ ・農生 ³) チャバネアオカメムシのJHネットワーク遺伝子の同定と機能解析	F102 °斉藤千温 ¹ ・内山徹 ² (静岡防除所 ¹ ・静岡茶研セ ²) ネギアザミウマと <i>Iris Yellow Spot Virus</i> (IYSV) のタマネギ収獲残渣における発生実態
14:00	A103 °古味一洋 ¹ ・中石一英 ¹ ・広瀬拓也 ¹ ・児玉幸信 ¹ (高知農技セ ¹) 雨よけビーマン類におけるキカブリダニのバンカーを組み込んだ害虫管理	B103 °原口大 ¹ ・小濱継雄 ² ・久場洋之 ¹ ・嶋田名利子 ¹ ・親富祖明 ¹ ・金城邦夫 ¹ ・大城良計 ¹ ・山岸正明 ¹ (沖縄防除セ ¹ ・沖縄農研セ ²) 久米島におけるアリモドキゾウムシの根絶防除	C103 °張替秋 ¹ ・平尾綾子 ¹ ・仲井まどか ¹ ・国見裕久 ¹ (農工大院・農リチャハマキオス殺しウイルスの交差感染性と宿主の類縁関係)	D103 °柑本俊樹 ¹ ・八丁昭龍 ¹ ・門田健吾 ¹ ・及川雅彦 ¹ ・長岡広行 ¹ ・高橋義行 ¹ ・飯干浩美 ² ・森克彦 ² ・井園佳文 ³ ・高木豊 ⁴ (日植防研 ¹ ・日植防研高知 ² ・日植防研宮崎 ³ ・日植防 ⁴) 殺虫剤6剤に対する土着天敵代表種の感受性	E103 °池田隆 ¹ ・古川誠一 ¹ ・中村純 ² ・佐々木哲彦 ¹² (玉川大・脳研 ¹ ・玉川大・ミツバチ科学 ²) セイヨウミツバチHex110遺伝子のメチル化の解析	F103 °飯田博之 ¹ ・北村登史雄 ¹ ・本多健一郎 ¹ (野菜茶業研究所 ¹) タバココナジラミバイオタイプQ成虫の羽化後日数にともなう次世代性比の変動
14:15	A104 °溝部信二 ¹ (山口農林総セ ¹) 紙袋を利用したイチゴのハダニ類の簡易調査方法	B104 °金城邦夫 ¹ ・大城良計 ¹ ・久場洋之 ¹ ・山岸正明 ¹ ・親富祖明 ¹ ・原口大 ¹ ・宮城聡 ¹ ・嵩原亜弓 ¹ ・安田慶次 ¹ (沖縄防除セ ¹) 津堅島におけるアリモドキゾウムシ・イモゾウムシ根絶事業	C104 °菊池義智 ¹ ・細川貴弘 ¹ ・深津武馬 ¹ (産総研・ゲノムファクトリー ¹) ホソヘリカメムシは腸内で共生細菌を選別する	D104 °八丁昭龍 ¹ ・高橋義行 ¹ (日植防研 ¹) 各種殺虫剤に対するコモリグモ類の感受性	E104 °古川誠一 ¹ ・池田隆 ¹ ・佐々木正己 ¹ ・佐々木哲彦 ¹ (玉川大・脳科学 ¹) セイヨウミツバチのAMPA受容体サブユニット遺伝子の単離	F104 °井上広光 ¹ (果樹研 ¹) 成虫期に獲得吸汁したミカンキジラミによるカンキツグリーニング病の虫媒伝染効率
14:30	A105 °東浦祥光 ¹ ・本田善之 ¹ ・畑中猛 ¹ (山口農林総セ ¹) 施設イチゴにおけるカブリダニの簡易モニタリング装置「ダニ坊主(仮称)」	B105 °上室剛 ¹ ・澁川洋 ² ・里島伸司 ² ・上福元彰 ² (鹿児島農総セ ¹ ・鹿児島大農支庁 ²) アリモドキゾウムシに対するIGR剤の効果	C105 °田中康次郎 ¹ ・菊池義智 ¹ ・二橋亮 ¹ ・深津武馬 ¹ (産総研・ゲノムファクトリー ¹) ホソヘリカメムシ中腸のEST解析：共生細菌感染時に発現が変動する遺伝子群の網羅的解析	D105 °八木繁実 ¹ ・岸田袈裟 ² (多摩アフリカセンター ¹ ・相模女子大 ²) アフリカの昆虫食(5)レイク・フライの保存と料理法	E105 °伏木大輔 ¹ ・四方雅人 ¹ ・吉村亮一 ¹ ・遠藤泰久 ¹ (京都工繊大 ¹ ・応用生物 ¹) 昆虫培養細胞におけるギャップ結合関連蛋白質Innexinの機能解析	F105 °佐渡山安常 ¹ ・宇久田理恵 ¹ ・澤岬哲也 ¹ ・亀川藍 ¹ ・河野伸二 ¹ (沖縄農研センター ¹) カンキツグリーニング病の防除法が異なる集落における罹病樹数とミカンキジラミ密度及び保毒虫率の推移
14:45	A106 °森田茂樹 ¹ ・柳田裕紹 ¹ (福岡農総試 ¹) スワルスキーカブリダニの飢餓耐性	B106 °松浦明 ¹ ・久野公子 ¹ ・今村幸久 ¹ ・溝邊真 ² (宮崎総農試 ¹ ・宮崎県農産園芸課 ²) 防虫ネットへのマシン油乳剤噴霧処理によるタバココナジラミに対する侵入防止効果の向上	C106 °涌井茜 ¹ ・北出理 ² (茨城大院・理工 ¹ ・茨城大・理 ²) 混合されたシロアリの共生鞭毛虫群集における種構成の変動	D106 °山本大介 ¹ ・南雲浩志 ¹ ・吉田栄人 ¹ (自治医大・医動物学 ¹) ワクチン候補抗原を吸血時に媒介する遺伝子組換え蚊	E106 °手塚薫 ¹ ・国見裕久 ¹ ・平尾綾子 ¹ ・仲井まどか ¹ (農工大院・農リ培養細胞を使わない組み換え核多角体病ウイルス作製法の検討	F106 °宇久田理恵 ¹ ・佐渡山安常 ¹ ・安佛尚志 ² ・深津武馬 ² (沖縄農研セ ¹ ・産総研 ²) 春季のシークワーサー新梢とミカンキジラミ体内のカンキツグリーニング病原細菌濃度変化と病原細菌の伝搬

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G101 [○] 桑原克也 ¹ ・大堀智也 ¹ ・三木静恵 ¹ ・酒井宏 ² (群馬農技セ ¹ ・群馬県庁) 2種の土壤消毒法による下層土壌でのネコブセンチュウ防除効果	H101 [○] 小林徹也 ¹ ・高木俊 ² ・吉岡明良 ² ・鷲谷いづみ ² ・高田まゆら ³ (生物研 ¹ ・東大院農 ² ・帯広畜産大) DNAマーカーを用いた水田のクモ類による害虫の捕食量の推定	I101 [○] 大村尚 ¹ ・本田計一 ¹ ・朝岡潔 ² ・井上A. 尚 ² (広島大 ¹ ・院 ² ・生物圏 ¹ ・農業生物資源研 ²) アカタテハ成虫脚ふ節の味覚:食物中の糖および発酵産物への応答	J101 [○] 藤井告 ¹ ・阿部広明 ² ・勝間進 ² ・嶋田透 ¹ (東大院農 ¹ ・昆虫遺伝 ¹ ・農工大農 ² ・昆虫機能 ²) カイコの性突然変異Vg(痕跡翅)に特異的なptpとapterousとの融合遺伝子	K101 [○] 松本和馬 ¹ ・又ルジトウオロ ² ・高橋正義 ¹ ・福山研二 ¹ (森林総研 ¹ ・PUSLIT Biologi, LIP ²) 森林火災を経た東カリアンタン低地二次林におけるチョウ類の種多様性	L101 [○] 北嶋康樹 ¹ ・守田詩穂 ² ・田辺堅太郎 ² ・田原雄一郎 ² ・平尾素一 ³ (茨城大 ¹ ・農 ² ・応動昆 ¹ ・フジ環境サービス ² ・環境生物コンサルティング ³) 粘着式ライトトラップを用いた「飛来侵入虫」のモニタリング法	13:30
G102 [○] 伊藤賢治 ¹ (北海道農研) エンバク野生種・非寄主作物のキタネグサレセンチュウ密度抑制効果と後作ダイコンでの被害低減効果	H102 [○] 石黒則雄 ¹ ・田淵研 ² ・土田浩治 ¹ (岐阜大 ¹ ・応用生物・昆虫生態 ¹ ・中央農研 ²) カメモシタマゴトビコバチの移動分散距離推定	I102 [○] 本田計一 ¹ ・中田まり子 ¹ ・吉岡弥生 ¹ ・大村尚 ¹ (広島大 ¹ ・院 ¹ ・生物圏科学 ¹) アサギマダラ雄成虫のアルカロイド受容化学感受器と電気生理応答	J102 [○] 永井正生 ¹ ・神戸崇 ¹ ・八尾泉 ¹ ・秋元信一 ¹ (北大農 ¹ ・農 ¹ ・昆虫体系 ¹) マイクロサテライトマーカーによる北海道のエンドウヒゲナガアブラムシ集団の遺伝的多様性	K102 [○] 上田明良 ¹ ・佐山勝彦 ¹ ・尾崎研一 ¹ (森林総研北海道 ¹) 立ち枯れ木に設置した衝突板トラップによるカミキリムシの捕獲	L102 [○] 川田達郎 ¹ ・秋野順治 ¹ ・山岡亮平 ¹ (京大工機大 ¹ ・応用生物 ¹) 杉材に含まれるヤマトシロアリの誘引・定着物質	13:45
G103 [○] 串田篤彦 ¹ ・関口博之 ¹ (北農研) DGGE法による線虫群集中のキタネグサレセンチュウ高感度検出と密度推定	H103 [○] 上野高敏 ¹ (九大 ¹ ・農 ¹ ・生防研 ¹) 導入寄生蜂の餌源としてのカラスノエンドウ群落の重要性	I103 [○] 肖偉 ¹ ・本田洋 ¹ (筑波大学 ¹ ・生命環境 ¹) モモノゴマダラノメイガの雌体表炭化水素による合成性フェロモン誘引活性の増強作用	J103 [○] 三橋亮太 ¹ ・スズキデボラ ² ・秋元信一 ² (北大農 ¹ ・昆虫体系 ¹ ・北大農院 ² ・昆虫体系 ²) ワタムシ亜科ソウリンヨスジワタムシの性比を決定づける要因の解明	K103 [○] 吉本治一郎 ¹ (京大院 ¹ ・地球環境 ¹) 資源の属性が樹液食ケンキスイ群集に及ぼす影響	L103 [○] 瀧村勇二 ¹ ・星野滋 ¹ (広総研農技セ ¹) モノアラガイ類が水稲鉄コーティング直播の苗立ちに及ぼす影響	14:00
G104 [○] 神崎菜摘 ¹ ・滝久智 ¹ ・坪屋勇人 ¹ ・岡部貴美子 ¹ ・田中龍聖 ² ・安部布樹子 ³ (森林総研 ¹ ・佐賀大 ² ・農 ² ・鹿児島大 ³) 8種の国内産クワガタムシ類より検出された便乗線虫	H104 [○] 平井規央 ¹ ・福重博貴 ¹ ・石井実 ¹ (大阪府大院 ¹ ・生命・昆虫 ¹) マダラヤドリバエの寄主探索における寄主と植物の影響	I104 [○] NGUYENDUC DO ¹ ・大林華菜子 ² ・中秀司 ² ・中田健 ³ ・安藤哲 ¹ (農工大院 BASE ¹ ・鳥取大 ² ・農 ² ・鳥取農林総研 ³ ・園試 ³) ナシカワホソガ(ホソガ科) が分泌する性フェロモンの同定	J104 [○] 秋元信一 ¹ (北大農 ¹ ・昆虫体系 ¹) 長期観察によって明らかになったアブラムシ性比の大きな変動および性比の遺伝性	K104 [○] 松倉啓一郎 ¹ ・奥田充 ¹ ・和田節 ¹ (九州沖縄農研 ¹) 国内に生息するリンゴガイ科の遺伝子構成の地理的変異	L104 [○] 尹彰晩 ¹ ・申東玖 ² ・文相来 ¹ ・李貞恩 ¹ ・黄仁天 ² ・金吉河 ¹ (忠北大農生大 ¹ ・経農中央研究所 ²) 花蟬の発生と寄主嗜好	14:15
G105 [○] 岩堀英晶 ¹ ・桑原実 ² ・上杉謙太 ¹ ・立石靖 ¹ (九州沖縄農業研究センター ¹ ・南筑後普及指導センター ²) カラタチ圃場で検出されたクルミネグサレセンチュウ	H105 [○] 釘宮聡一 ¹ ・下田武志 ² ・高林純示 ³ (農環研 ¹ ・中央農研 ² ・京大 ³ ・生態研 ³) コナガの害害即時的に放出される植物揮発性成分に対するコナガサムライコマユバチの選好性	I105 [○] 松山茂 ¹ (筑波大 ¹ ・生命環境 ¹) カマキリタマゴカツオブシムシ <i>Thaumaglossa rufocapillata</i> (Coleoptera: Dermestidae) の性フェロモン	J105 [○] 吉田昭広 ¹ ・木下勉 ² (JT生命誌研究館 ¹ ・立教大 ² ・理 ² ・生命理学 ²) モンシロチョウのハネの細胞配列パターン形成機構—基本機構の段階的関与—	K105 [○] 高田まゆら ¹ ・小林徹也 ² ・高木俊 ³ ・吉岡明良 ³ ・鷲谷いづみ ³ (帯広畜産大 ¹ ・生物研 ² ・東大院農 ³) 造網性クモ類と徘徊性クモ類との相乗効果がイネ害虫防除に果たす役割	L105 [○] 酒居勇太 ¹ ・刑部正博 ¹ (京大院農 ¹ ・生態情報 ¹) ナミハダニに対する太陽光中紫外線の影響について	14:30
G106 [○] 相場聡 ¹ (中央農研 ¹ ・検出同定チーム ¹) 秋田県のダイズシストセンチュウ発生状況	H106 [○] 降幡駿介 ¹ ・早川洋一 ¹ (佐賀大 ¹ ・農 ¹) 寄生蜂 <i>Asobara japonica</i> の毒液が宿主ショウジョウバエに及ぼす致死作用	I106 [○] 辻井直 ¹ ・安居拓恵 ¹ ・若村定男 ¹ ・田中誠二 ¹ ・原野健一 ¹ ・望月文昭 ² ・永山敦士 ³ ・外間康洋 ³ ・新垣則雄 ³ (農生研 ¹ ・信越化学 ² ・沖縄農研セ ³) ケブカアカチャコガネ雌成虫の放出フェロモン量変化をとらえる	J106 [○] 阿部誠 ¹ ・野下浩二 ¹ ・田母神繁 ¹ (秋田県立大 ¹ ・生物資源 ¹) ウリハムシがカボチャの若葉を摂食できる理由	K106 [○] 西田隆義 ¹ ・岸茂樹 ² ・京極大介 ² (京大農 ¹ ・昆虫生態 ¹ ・京大 ² ・生態研センター ²) 資源競争ではなく配偶をめぐる干渉が競争排除を説明する	L106 [○] 大野智恵 ¹ ・深谷緑 ² ・中尾彰宏 ³ ・真鍋祐樹 ³ ・菅原達也 ³ ・刑部正博 ¹ (京大院農 ¹ ・生態情報 ¹ ・東大院農 ² ・森林動物 ² ・京大院農 ³ ・海洋生物生産 ³) カンザワハダニにおけるカロテノイド組成と環境ストレスとの関係	14:45

3月26日(金)午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
15:00	A107 °杉山恵太郎 ¹ ・芳賀一 ² ・増井伸一 ² (静岡防除所 ¹ ・静岡農林研 ²) 強制換気温室における養液栽培トマトのIPM体系の防除効果	B107 °新垣則雄 ¹ ・永山敦士 ¹ ・外間康洋 ¹ ・上里卓己 ¹ ・宮城聡子 ¹ ・望月文昭 ² ・福本毅彦 ² ・安居拓恵 ³ ・若村定男 ³ (沖農研 ¹ ・信越化学 ² ・農生研 ³) ケブカアカチャコガネの交信かく乱法による防除技術開発	C107 °土田努 ¹ ・古賀隆一 ² ・深津武馬 ² ・松本正吾 ¹ (理研 ¹ ・産総研 ²) 昆虫に植物適応を賦与する共生細菌の体内動態解析	D107 °望月淳 ¹ ・春山直人 ² ・中秀司 ³ ・野村昌史 ² (農環研 ¹ ・千葉大 ² ・鳥取大 ³) 日本産クサカゲロウweb図鑑の公開	E107 °淵側太郎 ¹ ・松本顕 ² ・谷村禎一 ³ ・富岡憲治 ⁴ ・松山隆志 ⁵ ・山岸正明 ⁶ ・宮竹貴久 ¹ (岡山大院環境・進化生態 ¹ ・順天堂大医・生物 ² ・九大院理・生物 ³ ・岡山大院自然科学 ⁴ ・沖繩農研 ⁵ ・沖繩防除セ ⁶) 台湾野生系統のウリミバエにおける光入力に関わる概日時計遺伝子 <i>cryptochrome</i> の遺伝子型の解析	F107 °小堀陽一 ¹ ・中田唯文 ¹ ・大藤泰雄 ¹ ・高須夫悟 ² (国際農研 ¹ ・奈良女子大 ²) カンキツグリーニング病の虫媒伝播による侵入と感染拡大のリスク評価
15:15	A108 °北村登史雄 ¹ ・本多健一郎 ¹ (農研機構・野菜茶研) タイリクヒメハナカメシの幼虫の生存と発育に対する各種選択的殺虫剤の影響	B108 °永山敦士 ¹ ・新里仁克 ¹² ・安藤緑樹 ³ ・谷口昌弘 ³⁴ ・島谷真幸 ³ ・後真地兆布 ⁵ ・外間康洋 ¹ ・望月文昭 ⁵ ・若村定男 ¹ (沖繩農研 ¹ ・八重山農改善 ² ・沖繩防除セ ³ ・沖繩営農支援 ⁴ ・与那国きび対策 ⁵ ・信越化学 ⁶ ・農生研 ⁷) イネヨトウの合成性フェロモン剤による交信攪乱法による防除効果	C108 °小澤理香 ¹ ・植田浩一 ¹² ・松田一彦 ² ・後藤哲雄 ³ ・高林純示 ¹ (京大 ¹ ・生態研 ² ・近畿大 ³ ・農 ² ・茨城大 ³ ・農 ³) ナミハダニの共生微生物はリママメのカブリダニ誘引に影響を及ぼす	D108 °井上和彦 ¹ ・中尾史郎 ² ・松本功 ³ ・兼田久史 ² ・平井正志 ⁴ (株)修成建設コンサルタント ¹ ・京都府大 ² ・応用昆虫 ² ・和建技術(株) ³ ・京都府大 ⁴ ・細胞工学 ⁴) 奈良県と和歌山県のヒメタイコウチ個体群の遺伝的差異と絶滅危険度の評価	E108 °遠藤泰久 ¹ ・吉村亮一 ¹ ・伏木大輔 ¹ ・四方雅人 ¹ ・有井達夫 ² (京都工繊大 ¹ ・応用生物 ¹ ・生理研 ²) Kc167細胞におけるギャップ結合関連タンパク質イネキシンの超高压電子顕微鏡観察	F108 °中平賢吾 ¹ ・小堀陽一 ¹ ・Nguyen Chau ² ・Le Dien ² ・大藤泰雄 ¹ (国際農研 ¹ ・ベトナム南部果樹研 ²) ベトナムメコンデルタにおけるミカンキジラミとその天敵類の個体群動態
15:30	A109 °大朝真喜子 ¹ ・福森庸平 ¹ ・平野耕治 ¹ (石原産業株式会社・中央研究所) 気門封鎖型薬剤5剤の3種カブリダニ類への影響評価	B109 °建本聡 ¹ ・軸丸祥大 ¹ ・栗久宏昭 ¹ (広島総研 ¹ ・農技セ ² ・果樹研究部 ¹) ウンシュウミカン果実中のミカンバエ幼虫は蒸熱処理によって殺虫できるか：処理時の温度と時間が幼虫の生存率と果実品質に及ぼす影響	C109 °大手学 ¹ ・上山盛夫 ² ・山元大輔 ¹ (東北大院 ¹ ・生命 ¹ ・創価大 ² ・工 ²) 宿主の細胞機能を操作する <i>Wolbachia</i> タンパク質の同定	D109 °尾崎研一 ¹ ・佐山勝彦 ¹ ・上田明良 ¹ ・大澤正嗣 ² (森林総研北海道 ¹ ・山梨県森林総研 ²) 山梨県における天然林とカラマツ人工林の蛾類多様性の違い	E109 °龍田勝輔 ¹ ・谷村禎一 ² ・吉川寛 ¹ ・尾崎久久 ¹ (株)生命誌研究館 ¹ ・九大院理 ² ・生物 ²) ナミアゲハ(<i>Papilio xuthus</i>)ふ節感覚子の産卵刺激物質応答に関する電気生理学的解析	F109 °篠原和孝 ¹ ・叶一寿 ² ・松比良邦彦 ³ ・上福元彰 ⁴ (鹿児島農総セ ¹ ・喜界町 ² ・鹿児島農総セ大島 ³ ・鹿児島大島支庁 ⁴) カンキツグリーニング病緊急防除におけるミカンキジラミの防除と感染拡大防止
15:45	A110 °中村元太 ¹ ・兼次克也 ² (ダウ・ケミカル小郡開発セ ¹ ・ダウ・ケミカルアグロ開発部 ²) 殺虫剤スピノサド(スピノエース顆粒水和剤)の天敵に対する影響評価 -4種のカブリダニ天敵に対する影響-	B110 °金崎秀司 ¹ ・崎山進二 ¹ ・宮下裕司 ¹ (愛媛農水研果樹研セ ¹) ミカンバエの薬剤防除試験	C110 °成田聡子 ¹ ・野田博明 ¹ ・陰山大輔 ¹ (農業生物資源研究所) 共生細菌 <i>Wolbachia</i> によって引き起こされるキチョウの性転換：doublesex遺伝子の発現解析によって見えてきたこと	D110 °細谷忠嗣 ¹ (九大院比文・生物多様性 ¹) 琉球列島を北上するヤエヤマニセツツマグソコガネのトカラ列島への移入と分布拡大の状況	E110 °吉田龍博 ¹ ・横井翔 ¹ ・亀崎将司 ¹ ・田中利治 ¹ ・三浦健 ¹ (名大院 ¹ ・生命農 ² ・害虫制御 ¹) チョウ目幼虫では血球以外の組織でのRNA干渉は起こるのか？	F110 °安藤彰太郎 ¹ ・高月淳一 ¹ ・中山慧 ¹ ・宮竹貴久 ¹ ・世古智一 ² ・三浦一芸 ² (岡山大学 ¹ ・近畿中国四国農業研究センター ²) 飛ばないナミテントウの歩行活動量の測定
16:00	A111 °大林崇 ¹ ・木下文字 ¹ ・永井潤子 ¹ ・一ノ瀬礼司 ¹ ・横井進二 ¹ ・田中啓司 ¹ (三井化学アグロ) 新規殺虫剤レビメクチンに関する報告(1) 殺虫スペクトル及び有用昆虫に対する影響	B111 °小山昌志 ¹ ・島津康 ¹ (和歌山農試) 二酸化炭素くん蒸処理時間がショウガクロバネキノコバエの防除効果に及ぼす影響	C111 °陰山大輔 ¹ ・成田聡子 ¹ ・今西重雄 ¹ ・野田博明 ¹ (農業生物資源研究所) キチョウにメス化を引き起こす共生細菌 <i>Wolbachia</i> によるカイコ細胞の性転換	D111 °田中幸一 ¹ (農環研 ¹) 農業に有用な生物多様性の指標の開発：プロジェクト研究の概要	E111 °中口(高橋)梓 ¹ ・山本真史 ¹ ・岩田健一 ¹ ・岩淵喜久男 ² ・戸塚ゆ加里 ¹ ・杉村隆 ¹ ・若林敬二 ¹ (国立がんセンター ¹ ・農工大 ² ・応用昆虫 ²) DNA ADP-リボシル化酵素ピエリシン-1のモンシロチョウ生体防御における役割	F111 °高月淳一 ¹ ・安藤彰太郎 ¹ ・中山慧 ¹ ・宮竹貴久 ¹ ・三浦一芸 ² ・世古智一 ² (岡山大学 ¹ ・近中四農研 ²) 苗上における飛ばないナミテントウの滞在時間と捕食量にアブラムシ密度が与える影響

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G107 [○] 大林隆司 ¹ ・吉村聡志 ² ・小島彰 ³ ・櫻井文隆 ² ・竹内浩二 ¹ (都農総研・病害虫研 ¹ ・都中央普七東部分室 ²) ダイズシストセンチュウ高密度汚染エダマメ圃場への乾燥牛糞施用効果の1事例 一投入1回目・1年目の結果一	H107 [○] 中松豊 ¹ ・田中利治 ² (皇学館大・文・教育 ¹ ・名大院・生命農 ²) カリヤコマユバチの毒液とポリドナウイルスによって調節された寄生後半の寄主アワヨトウ幼虫の富栄養血しようについて	I107 [○] 水谷信夫 ¹ ・安田哲也 ¹ ・守屋成一 ¹ (中央農研) 異なるマメ科種子を与えたホソヘリカメムシ雄成虫のフェロモン成分保持量	J107 [○] 長谷川毅 ¹ ・服部誠 ¹ ・田村泰盛 ¹ ・中村匡利 ¹ ・野田博明 ¹ (農業生物資源研究所) トビロウカ唾液腺で高度に発現している遺伝子の解析	K107 [○] 山村光司 ¹ (農環研) 拡張Simpson指数による生物多様度の測定	L107 [○] 須藤正彬 ¹ ・刑部正博 ¹ (京大院農・生態情報) 自然生態系のダニは葉の裏面に多いのか—葉面形態・季節との関わりから—	15:00
G108 [○] 井関崇 ¹ (横浜植防) 沖縄県産タイモから検出された <i>Hirschmanniella</i> 属線虫について	H108 [○] 山下 藍 ¹ ・高須啓志 ¹ (九大・農 ¹) 幼虫内部寄生蜂 <i>Asecodes hispinarum</i> は koinobiontsか?	I108 山崎まどか ¹ ・佐倉緑 ² ・青沼仁志 ² ・松山茂 ³ ・秋野順治 ¹ ・山岡亮平 ¹ (京工繊大・応用生物 ¹ ・北大・電子研 ² ・筑波大・生命環境 ³) ついに解明!! クロコロギ雄の喧嘩行動誘起フェロモン	J108 [○] 武田藍 ¹ ・安田美香 ² ・田淵研 ² ・奥圭子 ² ・安田哲也 ² ・渡邊朋也 ² (千葉農林総研 ¹ ・中央農研 ²) アカスジカスミカメの水田侵入量と被害に影響を及ぼす要因1〜大規模発生源からの距離	K108 [○] 片山雅雄 ¹ ・吉島利則 ¹ ・青木由美 ² ・菅野亘 ³ (富山農総七農研 ¹ ・富山高岡農振セ ² ・農環研 ³) ウコンノメイガの性成熟および交尾の状況	L108 [○] 岡部貴美子 ¹ ・升屋勇人 ¹ ・川添和英 ² ・間野隆裕 ³ ・牧野俊一 ¹ (森林総研 ¹ ・名古屋市 ² ・矢作川研究所 ³) タイワンタケクマバチの侵入と随伴ダニのリスク	15:15
G109 [○] 吉田睦浩 ¹ (中央農研・検出同定RT ¹) 昆虫病原性線虫 <i>Steinernema litorale</i> と <i>S. abbasi</i> の混合接種試験	H109 [○] Andres Felipe Montoya Alvarez ¹ ・Ito Katsura ¹ ・Nakahira Kengo ¹ ・Arakawa Ryo ¹ (Kochi University Entomology ¹) ニッポンクサカゲロウとヤマトクサカゲロウのワタアブラムシに対する機能の反応	I109 [○] 安居拓恵 ¹ ・辻井直 ¹ ・若村定男 ¹ (農生研) エゾノキヌヤナギ傷枝から揮発するゴマダラカミキリ誘引物質	J109 [○] 安田美香 ¹ ・武田藍 ² ・田淵研 ² ・奥圭子 ² ・安田哲也 ² ・渡邊朋也 ² (中央農研 ¹ ・千葉農林総研 ²) アカスジカスミカメの水田侵入量と被害に影響を及ぼす要因2〜周辺植生と管理	K109 [○] 洲崎雄 ¹ ・宮竹貴久 ¹ (岡大院・環境・進化 ¹) メダカナガカメムシの長時間交尾と短時間・長時間の交尾挿入がもつ機能	L109 [○] 湯川淳一 ¹ ・秋本和彦 ² (九大 ¹ ・九大院農・昆虫 ²) 寄主資源量の変動を考慮に入れた植食性昆虫と寄主植物の同時性のずれの評価	15:30
G110 [○] 水久保隆之 ¹ ・武田藍 ² ・酒井啓充 ¹ ・神崎菜摘 ³ (中央農研 ¹ ・千葉農林総研 ² ・森林総研 ³) 千葉県植木産地の輸出主要樹種イヌマキとキャラボクのセンチュウ相について	H110 [○] 宇賀大祐 ¹ ・岩淵喜久男 ¹ (東京農工大・応用昆虫 ¹) 多胚性寄生蜂キンウワバトビコバチで見られる兵隊幼虫の攻撃行動における性差	I110 [○] 若村定男 ¹ ・安居拓恵 ¹ ・辻井直 ¹ ・南島誠 ² (農業生物研 ¹ ・長野南信農試 ²) ブルーベリー由来のゴマダラカミキリはまた別の植物成分に反応する	J110 [○] 石本万寿広 ¹ ・佐藤秀明 ¹ ・山代千加子 ¹ (新潟農総研・作物研 ¹) フェロモントラップ誘殺数によるアカヒゲホソミドリカスミカメ要防除水準設定の試み	K110 [○] 安部淳 ¹ ・上村佳孝 ² (静岡大・農 ¹ ・慶応大・生物 ²) 寄生バチ <i>Melittobia</i> 雌の多数回交尾	L110 [○] 高須啓志 ¹ (九大・農 ¹) 石垣・宮古における侵入害虫キムネクロナガハムシの発生	15:45
G111 [○] 酒井啓充 ¹ ・武田藍 ² ・水久保隆之 ¹ (中央農研 ¹ ・千葉農林総研 ²) 千葉県植木産地のイヌツゲから検出されるオオハリセンチュウについて	H111 [○] 鈴木浩史 ¹ ・刑部正博 ¹ (京大院農・生態情報 ¹) キョウチクトウがケナガカブリダニに与える直接的およびカンザワハダニを介した間接的影響	I111 [○] 森直樹 ¹ ・吉田哲也 ¹ ・阿部弘明 ¹ ・杉岡弘基 ¹ ・網干貴子 ¹ ・吉永直子 ² ・福井昌夫 ³ (京大院農・応用生命 ¹ ・ペンシルバニア州立大学 ² ・京大院農・応用生物 ³) 植物に抵抗性を誘導する脂肪酸-グルタミン酸縮合物の生合成	J111 [○] 奥谷恭代 ¹ ・渡邊朋也 ² (鳥取農林総研農試 ¹ ・中央農研セ ²) 水田すくい取り個体数を用いたアカスジカスミカメ斑点米被害の予測	K111 [○] 佐々木寛子 ¹ ・Lewis Zenobia ² ・宮竹貴久 ³ (岡山大・農学 ¹ ・エクセター大 ² ・岡山大院・環境 ³) 環境ストレスの違いはノシメダラメイガの精子競争に影響を及ぼすか?	L111 [○] 高野俊一郎 ¹ ・高須啓志 ² ・中村達 ³ (九大・生資源 ¹ ・九大・農 ² ・国際農研 ³) キムネクロナガハムシの低温耐性	16:00

3月26日(金)午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
16:15	A112 [○] 木下文字 ¹ ・大林崇 ¹ ・佐藤一行 ¹ ・島内円夏 ¹ ・中村雅彦 ¹ (三井化学アグロ) 新規殺虫剤レビメクテンに関する報告(2): チョウ目害虫およびタバコナジラミに対する作用特性	B112 [○] 松村美小夜 ¹ ・神川諭 ¹ ・峯圭司 ¹ ・安川人央 ¹ (奈良農総セ) 冬期の雨除け資材除去がハウレンソウケナガコナダニの被害や密度に与える影響	C112 [○] 道幸太輝 ¹ ・野村昌史 ¹ ・陰山大輔 ² ・成田聡子 ² (千葉大・院・応動昆・生物研・昆虫微生物) ³ 他種で生殖操作を引き起こす <i>Wolbachia</i> 2系統のモンシロチョウへの移植実験	D112 [○] 三田村敏正 ¹ ・荒川昭弘 ¹ ・岡崎一博 ¹ ・松木伸浩 ¹ ・山田真孝 ¹ (福島農総セ) 農業に有用な生物多様性の指標の開発: 東北地域の中山間地水田における指標生物の選抜	E112 亀崎将司 ¹ ・横井 翔 ¹ ・吉田龍博 ¹ ・鈴木正洋 ¹ ・中松豊 ² ・田中利治 ¹ ・三浦健 ¹ (名大院・生命農・害虫制御 ¹ ・皇學館大・文・教育 ²) アワヨトウ血球でのRNA干渉を利用した人為的アポトーシス誘導	F112 [○] 柴尾学 ¹ ・安達鉄矢 ¹ ・田中寛 ¹ ・世古智一 ² (大阪環水農総研・近中四農研 ²) 飛ばないナミテントウ放飼によるコマツナのアブラムシ類の防除(1) 成虫放飼の防除効果
16:30	A113 [○] 藤本岳人 ¹ ・富高保弘 ² ・安部洋 ³ ・二井一禎 ¹ ・津田新哉 ² ・水久保隆之 ² (京大院農 ¹ ・中央農研 ² ・理研BRC ³) ジャスモン酸メチル処理がシロイヌナズナのサツマイモネコブセンチュウ寄生率に及ぼす影響	B113 [○] 白石昭彦 ¹ (東北農業研究センター) アブ捕獲用トラップのアプリに対する間接的防除効果	C113 [○] 渡部真也 ¹ ・三浦一芸 ¹² (広島大院・生物園 ¹ ・近中四農研 ²) タイリクヒメハナカメムシにおける相加的ではない <i>Wolbachia</i> の細胞質不適合	D113 [○] 森本信生 ¹ ・西城洋 ¹ (農研機構 中央農研 ¹) 農業に有用な生物多様性の指標の開発: 二毛作と一毛作水田における節足動物相の比較	E113 [○] 佐野健志 ¹ ・横井翔 ¹ ・鈴木正洋 ¹ ・田中利治 ¹ ・三浦健 ¹ (名大院・生命農・害虫制御 ¹) 寄生蜂の毒液腺で発現する因子のレポーター	F113 [○] 安達鉄矢 ¹ ・柴尾学 ¹ ・田中寛 ¹ ・世古智一 ² (大阪環水農総研・近中四農研 ²) 飛ばないナミテントウ放飼によるコマツナのアブラムシ類の防除(2) 幼虫放飼の防除効果
16:45	A114 [○] 田中寛 ¹ ・柴尾学 ¹ ・保田淑郎 ² ・長谷川浩 ³ ・横山健次 ³ (大阪環水農総研 ¹ ・宝塚造形芸大 ² ・関西空港(株) ³) 日本におけるトノサマバツタのIPM		C114 [○] 三浦一芸 ¹ ・渡部真也 ² ・田上陽介 ³ (近中四農研 ¹ ・広島大院・生物園 ² ・静岡大院・農 ³) 日本産捕食性カメムシ <i>Orius</i> 属の <i>Wolbachia</i> の感染状態と水平感染経路推測	D114 [○] 江村薫 ¹ (埼玉農総研) 農業に有用な生物多様性の指標の開発: 水稲早期栽培地域における水中ライトトラップ捕獲生物と環境特性	E114 [○] Mangalika Priyanthi ¹ ・Iwabuchi Kikuo ¹ (農工大・応用昆虫 ¹) ヨトウガ幼虫血液中に存在する細胞塊の機能	F114 [○] 田中雅也 ¹ ・八瀬順也 ¹ (兵庫農総研) 薬剤散布が飛ばないナミテントウに与える物理的影響

18:00
20:00

懇親会 (ホテルグリーンタワー千葉)

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G112 [○] 中野潔 ¹ ・遠藤昌伸 ¹ (新潟園芸研) 活性炭処理土壌における土壌処理殺虫剤利用技術の検討 (第1報) 殺線虫剤の失活	H112 [○] 金澤美季 ¹ ・齋藤裕 ¹ ・佐原健 ² (北大院農 共生社会生物 ¹ ・北大院農 応用分子昆虫 ²) 社会性ハダニの糸を用いた清掃行動	I112 [○] 佐藤雅 ¹ ・五味剣二 ² ・小澤理香 ³ ・真田幸代 ¹ ・松村正哉 ¹ ・高林純示 ³ (九州沖縄農研 ¹ ・香川大 ² ・農 ² ・京大 ² ・生態研 ³) セジロウカ加害イネに誘導される病害抵抗性へのhydroperoxidelyaseの寄与	J112 [○] 渡邊朋也 ¹ ・武田藍 ² ・安田美香 ¹ ・田淵研 ¹ ・奥圭子 ¹ ・安田哲也 ¹ (中央農研 ¹ ・千葉農林総研 ²) アカスジカスミカメ合成性フェロモントラップ誘殺数とすくい取り捕獲数、斑点米被害との関係	K112 [○] 西岡幹矢 ¹ ・山田佳廣 ¹ (三重大院 生物資源 ¹) セグロカマバチにおける過寄生と子殺し戦略：寄主が4齢の場合	L112 [○] 菅野巨 ¹ ・望月淳 ¹ ・高野俊一郎 ² ・中村達 ³ (農環研 ¹ ・九大 ² ・生資源 ³ ・国際農研 ³) キムネクロナガハムシに対する単子葉植物の適合性	16:15
G113 [○] 後藤聡美 ¹ ・富樫一巳 ¹ (東京大学農学部・森林動物 ¹) マツノザイセンチュウと近縁線虫の交雑由来個体群の増殖能力	H113 [○] 刑部正博 ¹ ・深谷緑 ² ・上杉龍士 ³ ・大橋弘和 ⁴ (京大院農・生態情報 ¹ ・東大院農・森林動物 ² ・野菜茶業研 ³ ・和歌山果樹試 ⁴) カンキツ園におけるミカンハダニの分布―葉表が好きだが日向は嫌い？	I113 戸田恭平 ¹ ・田中久美子 ¹ ・廣瀬正和 ¹ ・吉井三賀 ¹ ・金哲史 ¹ (高知大農 ¹) セジロウカに含まれる殺卵誘導物質の解明	J113 [○] 安田哲也 ¹ ・奥圭子 ¹ ・樋口博也 ² ・鈴木智貴 ³ ・加進丈二 ³ ・吉島利則 ⁴ ・渡邊朋也 ¹ ・武田藍 ² ・安田美香 ¹ ・田淵研 ¹ ・高橋明彦 ² ・山下美与志 ⁵ ・福本毅彦 ⁶ ・望月文昭 ⁶ (中央農研 ¹ ・中央農研 ² ・北陸研 ² ・宮城古川農試 ³ ・富山農総研 ⁴ ・千葉農総研 ⁵ ・信越化学 ⁶) アカスジカスミカメとアカヒゲホソミドリカスミカメの混合誘引剤の可能性	K113 [○] 平山寛之 ¹ ・粕谷英一 ¹ (九大 ¹ ・理 ¹ ・生態 ¹) アメンボの産卵深度選択と卵の寄生回避効率	L113 [○] Nguyen Thi Huong ¹ ・一木良子 ¹² ・高野俊一郎 ¹² ・中村達 ¹ (国際農研 ¹ ・九大院 ²) Biological characteristics of <i>Tetrastichus brontispae</i> a parasitoid of the coconut hispine beetle <i>Brontispa longissima</i>	16:30
G114 [○] 三井隆志 ¹ ・二井一禎 ¹ ・山中典和 ² (京大院農・地域環境 ¹ ・鳥取大 ² ・乾燥地研 ²) 鳥取砂丘におけるクロマツと細菌食性線虫 <i>Acroboloides</i> sp.との相互作用	H114 亀里慶永 ¹ ・北嶋康樹 ¹ ・佐藤達雄 ² ・後藤哲雄 ¹ (茨城大 ¹ ・農・FSセ ²) 応動鼠 ¹ ・茨城大 ¹ ・農 ¹ ・FSセ ²) 温湯処理によるイチゴのナミハダニ防除	I114 [○] 山本正樹 ¹ ・上船雅義 ¹ ・高林純示 ¹ (京大 ¹ ・生態学研究センター ¹) キヤベツ―コナガ (<i>Plutella xylostella</i>)―コナガコマユバチ (<i>Cotesia vestalis</i>)の3者系に及ぼすモンシロチョウ幼虫食害の影響	J114 [○] 本田善之 ¹ ・畑中猛 ¹ ・東浦祥光 ¹ (山口農林総技セ 病害虫 ¹) クモヘリカメムシとアカスジカスミカメの複合トラップによる水田侵入予測	K114 [○] 香月雅子 ¹ ・徳永幸彦 ² ・宮竹貴久 ¹ (岡山大院 ¹ ・環境・進化生態 ¹ ・筑波 ² ・生命環境 ²) ヨツモンマメゾウムシにおける幼虫競争タイプと交尾行動との関係	L114 一木良子 ¹² ・高野俊一郎 ¹² ・Nguyen Thi Huong ¹ ・Oo Thi Tar ¹ ・中村達 ¹ (国際農研 ¹ ・九大院 ²) 人工飼料を用いた侵入害虫キムネクロナガハムシとその天敵寄生蜂2種の飼育	16:45

懇親会 (ホテルグリーンタワー千葉)	18:00 20:00
--------------------	----------------

3月27日(土) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
09:00	A201 °貴島圭介 ¹ ・大野豪 ¹ ・喜久村智子 ¹ (沖縄農研セ) 寄主が異なるタバココナジラミ (バイオタイプB) 個体群間の寄主適合性の違い	B201 °渡邊丈夫 ¹ ・鐘江保忠 ¹ ・藤澤春子 ¹ ・青木英子 ¹ (香川農試防除所) 各種物理防除資材のミナミキイロアザミウマに対する効果	C201 °萩原康夫 ¹ ・秋野順治 ² ・坂本洋典 ³ ・北條賢 ³ (昭和大 ¹ ・京都工繊大 ² ・北大 ³) 好蟻性シジミチョウ蛹体表面の樹状刺毛の機能	D201 °宮下奈緒 ¹ ・藪哲男 ¹ (石川農研・生物資源G) 農業に有用な生物多様性の指標の開発: 農薬の散布が捕食性クモ類の発生に及ぼす影響	E201 °村田未果 ¹ ・小林功 ¹ ・古田賢次郎 ¹² ・田村俊樹 ¹ ・粥川琢巳 ¹ ・篠田徹郎 ¹ (農生研・島根大 ²) トランスジェニックカイコを用いたKrüppel homolog 1遺伝子のin vivo機能解析	F201 °荒川昭弘 ¹ ・岡崎一博 ¹ ・小林智之 ² (福島農総セ ¹ ・福島県南農林 ²) 夏秋トマトでのオンシツコナジラミの糸状菌製剤を用いた総合防除
09:15	A202 °中石一英 ¹ ・広瀬拓也 ¹ ・古味一洋 ¹ ・伊藤政雄 ¹ ・下八川裕司 ¹ ・久永廣和 ² (高知農技セ ¹ ・高知中央東農振セ ²) タバコカスミカメを用いた施設栽培ナス科果菜類のタバココナジラミの防除	B202 °鐘江保忠 ¹ ・渡邊丈夫 ¹ ・藤澤春子 ¹ (香川農試防除所) 施設キュウリにおける光乱反射シート併用衝立式ネットによる数種害虫及びキュウリ黄化えそ病に対する防除効果	C202 °三橋渡 ¹ ・池田比呂志 ² (農業生物資源研究所 ¹ ・伊丹高校 ²) 日本のリュウキュウムラサキ個体群における <i>Wolbachia</i> の雄殺しに対する抵抗性個体の経時的増加	D202 °藪哲男 ¹ ・宮下奈緒 ¹ (石川農研) 農業に有用な生物多様性の指標の開発: 農薬の散布が寄生蜂の発生に及ぼす影響	E202 金児雄 ¹ ・古田賢次郎 ² ・桑野榮一 ³ ・比留間潔 ¹ (弘前大 ¹ ・農生 ² ・農生研 ² ・九大 ³ ・農) 早熟変態を引き起こすKF-13のJH合成阻害の作用機構	F202 °西村卓真 ¹ ・前藤薫 ¹ ・柴崎弘道 ² ・内田達清 ² ・山田真 ² ・蟻川謙太郎 ³ (神戸大院農・昆虫機能 ¹ ・パナソニック電工 ² ・総研大 ³ ・葉山高等研 ³) 異なる光波長がギンケハラボソコマユバチの産卵行動に与える効果
09:30	A203 °市瀬克也 ¹ ・Doan Bang ² ・Do Tuan ² (国際農研 ¹ ・越南南部果樹研 ²) カンキツ苗の定植前ネオニコチノイド剤処理と定植時期選定によるグリーンニング病低減効果	B203 °間佐古将則 ¹ (和歌山県 果樹試験場) サンショウのチャノキイロアザミウマに対する白色マルチの防除	C203 °中鉢淳 ¹ ・McCutcheonJohn ² ・工藤俊章 ³ ・宮城島進也 ¹ ・MoranNancy ² ・二河成男 ⁴ (理研・基幹研 ¹ ・アリゾナ大 ² ・生態進化 ² ・理研・中央研 ³ ・放送大 ⁴ ・教養 ⁴) アブラムシはボルバキアから得た遺伝子を利用してプフネラを制御する?	D203 °北澤健 ¹ ・江波義成 ¹ ・近藤篤 ¹ ・那須大城 ¹ (滋賀農技セ) 農業に有用な生物多様性の指標の開発: 有機栽培水田と慣行栽培水田におけるニカメイガ越冬幼虫寄生蜂相の比較	E203 °金児雄 ¹ ・山中直岐 ² ・片岡宏誌 ³ ・比留間潔 ¹ (弘前大 ¹ ・農学生命 ¹ ・ミネソタ大 ² ・東大 ³ ・新領域 ³) カイコにおけるallatotropinによるJH合成抑制作用とその機構	F203 °矢野榮二 ¹ ・Hemerik Lia ² (近畿大 ¹ ・Wageningen University ²) 数式モデルを利用したバンカー法の評価
09:45	A204 °松山隆志 ¹ ・小濱継雄 ¹ ・具志堅千尋 ¹ ・小林彩 ¹ ・久場洋之 ² ・舞木紀玲 ³ (沖縄農研セ ¹ ・沖縄防技セ ² ・沖縄農水部 ³) 与那国島におけるナスミバエ根絶防除の現状	B204 °山下真一 ¹ ・石倉聡 ¹ ・野村昌史 ² ・平間淳司 ³ ・二井清友 ⁴ (広島総研農技セ ¹ ・千葉大院園・応用昆虫 ² ・金沢工大 ³ ・兵庫農技総セ ⁴ ・淡路セ ⁴) LEDの照明範囲がハスモンヨトウ雄成虫の忌避効果に及ぼす影響	C204 °五箇公一 ¹ ・鈴木一隆 ¹ ・富永篤 ¹ ・横山潤 ² ・宇根有美 ³ ・ヒロジーンマーク ⁴ ・ハイアットアレックス ⁵ (国立環境研 ¹ ・山形大 ² ・麻布大 ³ ・Griffith Univ ⁴ ・CSIRO ⁵) 両生類の新興感染症カエルツボカビの起源は日本か?	D204 °行徳裕 ¹ ・樋口聡志 ¹ (熊本農研セ) 農業に有用な生物多様性の指標の開発: 水田において農薬の使用がクモ群集に及ぼす影響	E204 °坪田拓也 ¹ ・中倉貴代 ¹ ・瀬筒秀樹 ¹ ・篠田徹郎 ¹ ・塩月孝博 ¹ (農生研) カイコ幼若ホルモンエステラーゼ類縁体 <i>est-a</i> , <i>est-b</i> の遺伝子解析及び新規JHE機能ドメインの同定	F204 °星野滋 ¹ ・松浦昌平 ¹ ・保科亨 ¹ (広島総研農技セ) アブラムシ類に対するバンカープラントとしてのソルガムの評価
10:00	A205 °伊原竜夫 ¹ ・南島誠 ¹ ・栗原潤 ² (長野県南信農業試験場栽培部 ¹ ・長野県野菜花き試験場佐久支場 ²) 長野県南信地域におけるナモグリバエの寄生蜂相 第2報	B205 °畑中猛 ¹ ・溝部信二 ¹ ・東浦祥光 ¹ ・本田善之 ¹ (山口農林総セ) トマト黄化葉巻病ウイルスを媒介するコナジラミ類の黄色粘着ロールを利用した防除	C205 °藤井毅 ¹ ・中野亮 ¹ ・田久保淑子 ² ・銭曙光 ² ・山川玲 ² ・安藤哲 ² ・石川幸男 ¹ (東大院農・応用昆虫 ¹ ・農工大 ² ・BASE ³) キマエホソバの性フェロモン成分と放トリズム	D205 °松野和夫 ¹ ・稲垣栄洋 ¹ ・大石智広 ¹ ・高橋智紀 ¹ (静岡農林研) 農業に有用な生物多様性の指標の開発: レンゲ栽培が水田の有用な生物多様性に与える影響	E205 °横山拓彦 ¹ ・比留間潔 ¹ ・富田秀一郎 ² (岩手連合農学 ¹ ・生物研 ²) カイコの転写因子BHR4の、エクダイソン合成に対する影響	F205 °山下伸夫 ¹ (東北農研・カバークロップ ¹) 畑地の種子食者の雑草種子採食能と種子損耗の実態調査

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G201 [○] 齋藤佳奈 ¹ ・本田洋 ² ・周宇林 ² ・門脇辰彦 ³ ・木村澄 ⁴ ・芳山三喜雄 ⁴ (筑波大・生物資源・筑波大院・生命環境 ² ・名大院・生命農学 ³ ・畜草研・みつばちG) ミツバチに対する低濃度農薬の影響I	H201 [○] 天野洋 ¹ (京大院・農・生態情報) カブリダニの採集標本から種の性比を考察する—クズ上の2種を例として—	I201 [○] 今野浩太郎 ¹ ・中村匡利 ¹ ・和佐野直也 ¹ ・太田英司 ¹ ・平山力 ¹ ・立石剣 ¹ ・Kabir Khondkar E. ¹ ・竹中真紀子 ² ・小野裕嗣 ³ ・本田計一 ⁴ ・大藤康雄 ⁵ (農業生物資源研・食総研・農水省 ³ ・広島大 ⁴ ・国研センター熱帯・島嶼拠点 ⁵) オオバイヌピワ乳液に含まれる耐虫性物質 Phenanthroindolizidine alkaloid類	J201 [○] 竹内博昭 ¹ (九州農研) クモヘリカメムシの飛翔筋の乾燥重量から移動分散態を解明する試み	K201 [○] 秋山耕治 ¹ ・西田隆義 ¹ (京大院・農・昆虫生態) 体温調節と発育速度: ウスバシロチョウ幼虫の日光浴は適応的行動か	L201 [○] 長泰行 ¹ ・小澤理香 ¹ ・大串隆之 ¹ ・高林純示 ¹ (京大・生態研) 匂いを介した植物間コミュニケーション: 隣の虫は悪い奴?	09:00
G202 [○] 糸川健太郎 ¹ ・駒方修 ² ・葛西真治 ² ・川田均 ³ ・岡村佳香 ² ・政田正弘 ¹ ・富田隆史 ² (千葉大・融合 ¹ ・国立感染研・昆虫 ² ・長崎大・熱研 ³) 殺虫剤抵抗性と連鎖するCYP9M10遺伝子の過剰発現と進化	H202 [○] Shah Maqsood ¹ ・Suzuki Takeshi ^{2,3} ・Ghazy Noureldin ¹ ・Amano Hiroshi ⁴ ・Ohyama Katsumi ¹ (Chiba University ¹ ・JSPS ² ・Kobe University ³ ・Kyoto University ⁴) Effect of photoperiod on the diapause induction of Kanzawa spider mite, <i>Tetranychus kanzawai</i>	I202 [○] 三宅謙 ¹ ・秋野順治 ¹ ・山岡亮平 ¹ ・矢野修一 ² (京工繊大・化学生態学 ¹ ・京大・生態情報開発学 ²) アリはカブリダニを襲うか? ハダニを襲わないのはなぜか?	J202 [○] 長澤淳彦 ¹ ・樋口博也 ¹ (中央農研・北陸研セリ) アカヒゲホソミドリカスミカメおよびアカスジカスミカメの産卵行動	K202 [○] 田中一裕 ¹ ・渡康彦 ² ・木村勇司 ³ (宮城学院女子大・一般教育 ¹ ・芦屋大・臨床教育 ² ・青森農林総研 ³) 温度較差反応の普遍性を探る	L202 [○] 比留間脩 ¹ ・安田弘法 ¹ ・浦野久久 ² ・斉藤正一 ³ ・上野満 ³ ・海老名寛 ³ ・岡田充弘 ⁴ ・大澤正嗣 ⁵ ・布川耕一 ⁶ ・蛭田利秀 ⁷ (山形大・農 ¹ ・森林総研 ² ・山形森林研究研修セ ³ ・長野林業総合セ ⁴ ・山梨森林総研 ⁵ ・新潟森林研 ⁶ ・福島林業研究セ ⁷) 温暖化による寄主-寄生蜂相互作用の変化がカイガラムシを大発生させる?	09:15
G203 [○] 駒形修 ¹ ・葛西真治 ¹ ・糸川健太郎 ² ・富田隆史 ¹ (感染研・昆虫 ¹ ・千葉大・融合 ²) ピレスロイド抵抗性アカイエカ種群蚊のkdr遺伝子型	H203 [○] 松木伸浩 ¹ ・三田村敏正 ¹ ・田中一裕 ² ・渡邊朋也 ³ (福島農総セ ¹ ・宮城学院女子大 ² ・中央農研 ³) クモヘリカメムシの変温条件下における耐寒性	I203 [○] 安台梨乃 ¹ ・秋野順治 ¹ ・山岡亮平 ¹ (京工繊大院・応用生物) 付き合い上手なアメリ -異種・異巢間での攻撃性比較-	J203 [○] 塩谷諭史 ¹ ・堀雅敏 ¹ (東北大院農・生物制御) アカヒゲホソミドリカスミカメの水田への侵入に関わるイネ香气成分	K203 [○] 佐原寛美 ¹ ・山田佳廣 ¹ (三重大院・生物資源) セグロカマバチにおける寄主摂食戦略	L203 [○] 日比野翔 ¹ ・佐藤智 ¹ ・安田弘法 ¹ (山形大院農・動物生態) キャベツの生育が広食性捕食者と害虫の相互作用に及ぼす影響	09:30
G204 [○] 古崎利紀 ¹ ・ブラディセアン ² ・スコットジェフリ ³ (農生資研・昆虫科学研究領域 ¹ ・Smithsonian Institution ² ・Cornell University ³) イエバエの有機リン剤低感受性型アセチルコリンエステラーゼ遺伝子の頻度	H204 [○] 井上大成 ¹ ・若山学 ² ・佐藤重穂 ³ ・前藤薫 ⁴ (森林総研多摩 ¹ ・奈良県森林技セ ² ・森林総研四国 ³ ・神戸大院・農 ⁴) クスアナキゾウムシの発育に対する温度と日長の影響	I204 [○] 鈴木優八 ¹ ・秋野順治 ¹ ・山岡亮平 ² (アース製薬 ¹ ・京工繊大・工芸科学 ²) アリの体表成分を水で抽出できるのか?	J204 [○] 樋口博也 ¹ ・高橋明彦 ² ・長澤淳彦 ¹ ・福山真希 ² (中央農研・北陸研究セ ¹ ・三井化学アグロ) 新潟県におけるアカスジカスミカメ年間世代数の推定	K204 [○] 山田陽子 ¹ ・佐藤智 ¹ ・安田弘法 ¹ ・大澤直哉 ² (山形大農・動物生態 ¹ ・京大農・森林生態 ²) 近縁2種の捕食性テントウムシの産卵様式の違いとその意義について	L204 [○] 榎原充隆 ¹ (東北農研) 種子散布者としてのゴムシ類	09:45
G205 [○] 葛西真治 ¹ ・糸川健太郎 ¹ ・駒形修 ¹ ・小林陸生 ¹ ・富田隆史 ¹ (国立感染研・昆虫) ネットアイエカ成虫のピレスロイド剤抵抗性機構 (1)	H205 [○] 五味正志 ¹ ・岩瀬俊一郎 ¹ ・夏山雅史 ¹ ・立川紗代子 ¹ (県立広島大・生命環境) ドロノキハムシの庄原市個体群における休眠誘導のタイミングと繁殖成功	I205 [○] 乾陽子 ¹ ・大久保忠浩 ² ・清水加耶 ² ・市岡孝朗 ² (大阪教育大学・教養 ¹ ・京都大学・人間・環境) マカラング属アリ植物上のシジミチョウ幼虫の化学擬態	J205 [○] 加進丈二 ¹ ・狐塚慶子 ² ・畑中篤 ² ・渡邊朋也 ³ (宮城古川農試 ¹ ・宮城防除所 ² ・中央農研 ³) 水田内のイネホタルイ発生量にもとづく斑点米被害リスクの評価	K205 [○] 秋野順治 ¹ ・金子修治 ² (京工繊大・応用生物 ¹ ・静岡県果樹セ ²) アリから攻撃されることなくアブラムシを捕食するテントウムシ	L205 [○] 矢野修一 ¹ (京大院・農・生態情報) 捕食回避からみたハダニの集合効果	10:00

3月27日(土) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
10:15	A206 °栗原潤 ¹ ・伊原竜夫 ² ・豊嶋悟郎 ¹ (長野野菜花き試 ¹ ・長野南信農試 ²)長野県内の高標高地におけるナモグリバエの寄生蜂相	B206 °鈴木文詞 ¹² ・ShahMaqsood ³ ・GhazyNoureldin ³ ・天野洋 ⁴ ・竹田真木生 ⁵ ・大山克己 ³⁶ (神戸大 ¹ ・学振PD ² ・千葉大院園芸 ³ ・京大院農 ⁴ ・神戸大院農 ⁵ ・千葉大環境健康フィールド科学 ⁶)省スペース型微小生物光周反応調査システムの開発	C206 °立石剣 ¹ ・今井邦雄 ² ・鈴木幸一 ³ (農業生物資源研 ¹ ・三重大学 ² ・生物資源 ³ ・岩手大学 ³)培養細胞株を用いたヤママリン誘導体の細胞増殖抑制効果検定方法	D206 °馬場友希 ¹ ・吉武啓 ¹ ・栗原隆 ¹ ・楠本良延 ¹ ・平館俊太郎 ¹ ・吉松慎一 ¹ (農業環境技術研究所 ¹)農業に有用な生物多様性の指標の開発:農地周辺の草地における植生とクモ類の関係	E206 °伊藤克彦 ¹ ・河岡慎平 ¹ ・木内信 ² ・藤本善徳 ³ ・丹羽隆介 ⁴ ・篠田徹郎 ² ・伴野豊 ⁵ ・嶋田透 ¹ ・勝間進 ¹ (東大院農 ¹ ・生物研 ² ・東工大理 ³ ・筑波大院生命環境 ⁴ ・九大院農 ⁵)カイコ光沢不眠蚕遺伝子nm-gはエクジソン生合成に関わるshort-chain dehydrogenase/reductaseをコードする	F206 °牛島昂志 ¹ ・上野高敏 ¹ ・高木正見 ¹ (九大院・生防研 ¹)ツヤヒメハナカメムシが水田やイネ科雑草地を生息地とする理由:植物種の影響
10:30	A207 °田淵研 ¹ ・滝久智 ² ・水谷信夫 ¹ ・長坂幸吉 ¹ ・守屋成一 ¹ ・袖山悟志 ³ (中央農研 ¹ ・森林総研 ² ・茨城農総セ ³)非農耕地での調査の重要性:ホソヘリカメムシのトラップ調査から	B207 °芳賀一 ¹ ・増井伸一 ¹ (静岡農林研 ¹)メロンに発生するミナミキイロアザミウマの光の波長に対する誘引特性	C207 °長谷川浩一 ¹ ・三輪さつき ¹ ・堤内要 ¹ ・三輪錠司 ¹ (中部大・応用生物学部 ¹)線虫バイオセンサーを用いた機能性食品成分のスクリーニング	D207 °吉田信代 ¹ ・東山雅一 ¹ ・福田栄紀 ¹ ・平田統一 ² (東北農研 ¹ ・岩手大 ²)農業に有用な生物多様性の指標の開発:東北の放牧草地における指標候補	E207 °金城輝則 ¹ ・比留間潔 ¹² (岩手連大 ¹ ・弘前大 ² ・農生 ³)カイコのアラタ体と皮膚におけるエクダイソンカスケードの制御	F207 °嶽崎研 ¹ ・林川修二 ¹ ・上野高敏 ² ・高木正見 ² (鹿児島農総セ大隅 ¹ ・九大農 ²)ミツバチを用いた天敵微生物媒介によるアルファルファタコゾウムシ防除の試み 2アルファルファタコゾウムシ疫病菌の蔓延の早期化に及ぼす温度
10:45	A208 °大野豪 ¹ ・宮城聡子 ¹ ・喜久村智子 ¹ ・後藤哲雄 ² ・貴島圭介 ¹ ・大石毅 ¹ ・諸見里知絵 ³ ・原口大 ⁴ ・與那嶺要 ¹ ・上里卓己 ⁴ (沖縄農研セ ¹ ・茨城大 ² ・農 ² ・沖縄南部農改セ ³ ・沖縄病害虫防技セ ⁴)沖縄の非作物植物に寄生するTetranychus属ハダニの種構成の特徴,および作物上の特異なハダニ種構成との関連	B208 °佐藤安志 ¹ ・石島力 ¹ ・上杉龍士 ¹ ・大泰司誠 ¹ (野茶研金谷 ¹)暗期の照射射がチャノコカクモンハマキの交尾行動に及ぼす影響の系統間変異	C208 °安田慶次 ¹ ・島谷真幸 ¹ ・仲本寛 ¹ ・熊野了州 ² ・安居拓恵 ³ ・若村定男 ³ (沖縄防 ¹ ・琉球産経 ² ・農業生物資源研 ³)イモゾウムシの配偶者探索行動における視覚刺激の重要性	D208 °金子修治 ¹ ・加藤光弘 ¹ (静岡農林技研果樹研セ ¹)農業に有用な生物多様性の指標の開発:カンキツ園における環境保全型農法の指標生物の候補種とその発消長	E208 °富田秀一郎 ¹ ・安河内祐二 ¹ ・廣川昌彦 ¹ (生物研 ¹ ・昆虫ゲノム ¹)ホメオティック遺伝子欠損変異体のカイコ胚における表現型について	F208 °鈴木伸隆 ¹ ・新島恵子 ¹ (玉川大学農学部 ¹)ハネナガマキバサシガメ(Nabis stenoferus)の生物農薬としての評価
11:00	ポスター					
12:00	ポスター					
13:00	シンポジウム「応用昆虫学が拓く未来」					
17:20	シンポジウム「応用昆虫学が拓く未来」					

	小集会					
17:30	施設栽培ナス科野菜における在来捕食性天敵バンカーの開発	～温故知新虫物語～本家・フェロモン屋	第2回昆虫ホルモン談話会:20E以外のエクジステロイドの代謝制御と機能	多種多様な栽培形態で有効な飛ばないナミテントウ利用技術の開発	カンキツグリーニング病小集会～媒介虫の移動分散と病害の拡大について考える～	
20:30						

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G206 松村正哉 ¹ ・大津礼子 ² ・真田幸代 ¹ ・大塚彰 ¹ (九州沖縄農研 ¹ ・長崎防除所 ²) 日本とその飛来源におけるトビウカとセジロウカの薬剤感受性の動向	H206 安田伸弥 ¹ ・中村圭司 ¹ (岡山理大) オシオカラトンボの体サイズと脱皮回数に及ぼす光周期と温度の効果	I206 笹川浩美 ¹² ・奥田隆 ³ ・所雅彦 ⁴ ・山岡亮平 ⁵ (財)JSF・科学技術館 ¹ ・国際科学振興財団FAIS・研究開発 ² ・農業生物資源研究所 ³ ・森林総合研究所 ⁴ ・京都工芸繊維大学 ⁵) ミツバチ類の社会性行動および情報化学物質とヒト社会の科学コミュニケーション	J206 高橋明彦 ¹ ・樋口博也 ¹ (中央農研・北陸研究セ) ¹ 出穂前の水田におけるアカヒゲホソミドリカスミカメの増殖	K206 佐藤幸恵 ¹² ・望月淳 ¹ (農環研 ¹ ・JSPS ²) ススキスゴモリハダニにおけるオスの形態と攻撃性の地理的変異	L206 岩本啓秀 ¹ ・佐藤サトル ¹ ・安田弘法 ¹ (山形大・農) 敷ワラがナスの生育と地上部および土壌動物に及ぼす影響	10:15
G207 松村正哉 ¹ ・真田幸代 ¹ ・作本信次 ² ・大塚彰 ¹ ・竹内博昭 ¹ (九州沖縄農研 ¹ ・熊本農研 ²) 九州地域におけるヒメトビウカの薬剤感受性：海外飛来以降どうなったか	H207 橋本健一 ¹ (千葉県立保健医療大学) 関東南部におけるナガサキアゲハの光周反応と発育零点およびクロアゲハ、ナミアゲハの光周反応	I207 佐久間正幸 ¹ ・辻本渉 ¹ ・柴本瑞陽 ¹ (京大院農・昆虫生理) 走風性は匂いのON/OFFで補強される	J207 横須賀知之 ¹ ・西宮智美 ¹ ・大橋真理子 ¹ ・伊藤常雄 ² ・山田壮一郎 ² ・池田千亜紀 ² (茨城農総セ農研 ¹ ・茨城常陸大宮農改 ²) 地域ブランド米栽培圃場におけるクモヘリカメムシ防除要否判定の取り組み	K207 立田晴記 ¹ ・熊野了州 ² ・原口大 ³ ・高梨琢磨 ⁴ (琉球大農 ¹ ・琉球産経 ² ・沖縄病害虫防技セ ³ ・森林総研 ⁴) イモゾウムシにおける擬死行動時の発音：音の構造とその種内変異	L207 田中晋吾 ¹ (北大CENSUS) アオムシコマユバチが利用する寄主の種類と高次寄生蜂に対する防衛効果の関係	10:30
G208 上野清 ¹ ・佐藤智浩 ² ・土門清 ³ (山形農総研・水田農試 ¹ ・山形防除所庄内 ² ・山形防除所 ³) 山形県におけるfipronilのコバネイナゴに対する感受性	H208 池本孝哉 ¹ (帝京大・医・微生物) 昆虫に「発育適温範囲」は存在しない!?	I208 辻本渉 ¹ ・柴本瑞陽 ¹ ・佐久間正幸 ¹ (京大院農・昆虫生理) チャバナゴキブリは明るいと元気に匂い源に進む	J208 桐谷幸生 ¹ ・川瀬あゆみ ¹ ・山田英一 ¹ (三井化学アグロ) シラホシカメムシ類に対するジノテフランの経口投与による殺虫効果および吸汁阻害効果	K208 山本有里 ¹ ・北條賢 ² ・秋野順治 ¹ ・山岡亮平 ¹ (京都工繊大・応用生物 ¹ ・北大・地球環境 ²) ムラサキシジミとアミメアリの相利共生の成立・維持機構の解明	L208 上田紘司 ¹ ・安田弘法 ² ・俵谷圭太郎 ² ・村山秀樹 ² ・佐藤智 ² ・西澤隆 ² ・村山哲也 ² ・豊増知伸 ² (岩手大院・連合農 ¹ ・山形大・農 ²) アーパスキュラー菌根菌がコレマンアブラバチの生活史特性に及ぼす影響	10:45
ポスター						11:00 12:00
シンポジウム「応用昆虫学が拓く未来」						13:00 17:30
小集会						
餌資源推定に対する様々なアプローチ:オサムシ科甲虫を例に	第40回ハダニ談話会	第16回日本ICIPE協会研究報告会:ネムリユスリカ研究の最前線-極限乾燥耐性のメカニズム	果樹の難防除害虫研究会-モモシクイガに関する新知見と省農薬化の展望-	交尾器研究最前線:進化学・行動学との接点	侵略的外来昆虫問題 その1-外来生物法と外来昆虫	17:45 20:45

3月28日(日) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
09:00	A301 °中秀司 ¹ ・望月雅俊 ² ・中田健 ³ ・有田豊 ⁴ ・DoNguyen Duc ⁵ ・安藤哲 ⁶ (鳥取大・農・果樹研究所 ² ・鳥取農林総研園試 ³ ・名城大・農 ⁴ ・農工大BASE ⁵) スカシバガの性フェロモン(VIII): ブドウ害虫クビアカスカシバの性フェロモン	B301 °大谷洋子 ¹ ・間佐古将則 ² ・増田吉彦 ² (和歌山かきもも研 ¹ ・和歌山果試 ²) ミカンキイロアザミウマの歩行および飛翔行動による走光性作用スペクトル	C301 °河村俊和 ¹ ・溝部信二 ¹ ・畑中猛 ² (山口農総技セ) ライトトラップによる果樹カメムシ類の個別園地でのモニタリング技術	D301 °清水信孝 ¹ ・手柴真弓 ¹ ・堤隆文 ¹ ・柳田裕紹 ¹ ・森田茂樹 ¹ (福岡農総試) 農業に有用な生物多様性の指標の開発-農業の使用程度が少ないカンキツ園で多く確認された生物種の発生状況	E301 °水口智江可 ¹ ・田中美帆 ¹ ・三浦健 ¹ ・田中利治 ¹ (名大院・生命農 ¹) ミカンキイロアザミウマにおける転写因子 <i>broad-complex</i> の発現解析	F301 °井村岳男 ¹ ・松村美小夜 ¹ ・國本佳範 ¹ (奈良農総セ) 露地ナス栽培の殺虫剤管理状況と植生管理が土着天敵類発生に及ぼす影響
09:15	A302 °加藤晋一 ¹ ・IMadeSamudra ² ・河津圭 ³ ・足達太郎 ¹ (東京農大・国際農業開発・BB-BIOGEN(インドネシア) ² ・農環研 ³) インドネシア・ジャワ島西部におけるケバカノメイガの総合的害虫管理に向けて	B302 °村上芳照 ¹ ・功刀幸博 ¹ ・綿打享子 ¹ (山梨果試 ¹) スピネトラムWDGを用いたオウトウショウジョウバエの体系防除	C302 °南島誠 ¹ ・杉江元 ² ・田畑純 ² (長野南信農試 ¹ ・農環研 ²) リンゴコカクモンハマキ発生予察用性誘引剤の誘引力	D302 °木村佳子 ¹ ・木村利幸 ¹ ・石栗陽一 ¹ ・櫛田俊明 ¹ (青森産技セりんご研 ¹) 農業に有用な生物多様性の指標の開発-リンゴにおける生物多様性の指標生物の選抜	E302 °坪川理美 ¹ ・堀金麻理 ¹ ・中島由郎 ² ・田中博光 ³ ・テイラーデマー ¹ (筑波大・生命環境 ¹ ・産総研 ² ・農業資源研 ³) マダニの抗菌性ペプチドの転写制御因子 Relの解析	F302 °市川大輔 ¹ ・大野和朗 ¹ (宮崎大・農 ¹) 露地ナス栽培初期での土着天敵の活用: ナスおよび周辺植生でのヒラタアブ類の種構成
09:30	A303 °吉島利則 ¹ ・片山雅雄 ¹ ・守川俊幸 ¹ ・三室元気 ¹ ・岩田忠康 ¹ (富山農総セ農研 ¹) 殺虫剤を育苗箱処理しない場合の水稻害虫の発生状況	B303 °外間康洋 ¹ ・永山敦士 ¹ ・新垣則雄 ¹ (沖縄農研セ ¹) 大量誘殺及びフィプロニルベイト剤を用いたシロスジオサゾウムシ防除の可能性	C303 °筑木秀毅 ¹ (那覇植物防疫事務所) アリモドキゾウムシへのルビジウム (Rb) によるマーキング法	D303 °舟山健 ¹ (秋田農技セ果樹試 ¹) 農業に有用な生物多様性の指標の開発-リンゴ園におけるクモ類およびゴミムシ類の発生数と防除圧の関係-	E303 °和佐野直也 ¹ ・秦珠子 ¹ ・中村匡利 ¹ ・今野浩太郎 ¹ ・平山力 ¹ (生物研 ¹) クワ耐虫性タンパク質の2種鱗翅目幼虫の中腸に対する結合特性	F303 °下田武志 ¹ (中央農研センター) コナガの土着寄生蜂コナガサムライコマユバチに及ぼす薬剤の影響: 散布後の経過日数と寄主探索行動に及ぼす阻害効果との関係
09:45	A304 °北島博 ¹ ・大谷英児 ¹ ・川島祐介 ² ・國友幸夫 ³ ・石谷栄次 ³ (森林総研 ¹ ・群馬林試 ² ・千葉農総研セ森林研 ³) 菌床シイタケ害虫ナガマドキノコバエ終齢幼虫の全面発生栽培菌床上における存在頻度率による密度推定	B304 °島克弥 ¹ ・尾上美和 ² ・山本明 ² (デュボン株式会社 ¹ ・北興化学工業株式会社 ²) 新規殺虫剤クロラントラニプロールに関する研究 (第5報)	C304 °山中武彦 ¹ ・ネルソンビル ² ・内村浩一郎 ³ ・ピヨンスタッドオッター ⁴ (農環研 ¹ ・クィーンズ大学 ² ・鹿児島農総セ ³ ・ペン州大 ⁴) 温帯多化性昆虫の世代が分離するのはなぜか? 生態学的考察	D304 °鹿島哲郎 ¹ ・草野尚雄 ¹ ・星野真西 ¹ ・富田恭範 ¹ (茨農総セ 園芸研究所 ¹) 農業に有用な生物多様性の指標の開発 - 殺虫剤散布等の圃場管理がナシ園内に生息する節足動物に及ぼす影響-	E304 °本多佳子 ¹ ・堀金麻理 ¹ ・テイラーデマー ¹ (筑波大・生命環境 ¹) クサグモの核内受容体E75の解析	F304 °広瀬義躬 ¹ (九大 ¹) ニカメイガの卵寄生蜂ズイムシアカタマゴバチの生物農薬的利用に過寄生は障害となるか-過去の蜂放飼試験の再検討
10:00	A305 °小林正秀 ¹ (京都府大・生命環境 ¹) カシノナガクイムシの大量捕獲法の開発	B305 °尾上美和 ¹ ・山本明 ¹ ・島克弥 ² (北興化学工業株式会社開発研究所 ¹ ・デュボン株式会社 ²) 新規殺虫剤クロラントラニプロールに関する研究 (第6報)	C305 °林川修二 ¹ ・嶽崎研 ¹ (鹿児島農総セ大隅) アルファルファタコゾウムシの夏眠覚醒に及ぼす日長の影響	D305 °穴澤拓未 ¹ ・佐々木正剛 ¹ (福島農総セ果樹研 ¹) 農業に有用な生物多様性の指標の開発-モモ園における生物多様性の指標生物種の選抜	E305 °小倉安海 ¹ ・星野啓太 ¹ ・岩淵喜久男 ¹ (農工大・応用昆虫 ¹) ブドウトラカミキリにおけるセクロピンの発現パターンの解析	F305 °Kyawt San Dar Aung ¹ ・Masami Takagi ¹ ・Takatoshi Ueno ¹ (九大農・生防研 ¹) Effect of rearing and cold storage conditions on <i>Ooencyrtus nezarae</i> reproduction

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G301 °大野徹 ¹ ・山口和広 ¹ (愛知農総試 ¹) 愛知県におけるミナミキイロアザミウマの薬剤感受性	H301 °岩泉連 ¹ (横浜植物防疫所 ¹) マイマイガ越冬卵塊の孵化調査	I301 °新川徹 ¹ ・行弘文子 ¹ ・野田博明 ¹ ・難波修 ¹ ・立石剣 ¹ (生物資源研 ¹) ハスモンヨトウ幼虫の消化管内の囲食膜はNPV感染阻止機能を持つか?	J301 °芳山三喜雄 ¹ ・木村澄 ¹ ・門脇辰彦 ² (畜草研 ¹ ・みつばちG ¹ ・名大院 ¹ ・生命農 ²) 日本国内におけるミツバチノゼマ微生物の浸潤調査	K301 °渡邊智子 ¹ ・中村圭司 ¹ ・田川純 ¹ (岡山理大 ¹) モンシロチョウ属3種(<i>Pieris</i> spp.)幼虫の食草葉面選択	L301 °中村寛志 ¹ ・江田慧子 ¹ ・須賀丈 ² ・西尾規孝 ³ (信州大学農学部AFC ¹ ・長野県環境保全研究所 ² ・上田市 ³) 長野県安曇野におけるオオルリシジミの卵寄生と野焼きについて	09:00
G302 孫立倉 ¹² ・渡辺正巳 ² ・本山直樹 ¹ (東農大 ¹ ・総研 ¹ ・千葉大院 ¹ ・園 ²) 各種ニーム油製剤のコナガ幼虫に対するIGR活性とヒメダカに対する魚毒性	H302 °外山晶敏 ¹ ・三代浩二 ¹ ・榎垣守男 ¹ ・井原史雄 ¹ (果樹研 ¹) チャバネタマゴクロバチの越冬機構II: 発育条件の違いで何が変わるのか?	I302 °高務淳 ¹ ・島津光明 ¹ (森林総研 ¹) カシワマイマイの数地域個体群から分離される核多角体病ウイルス	J302 °沓掛磨也子 ¹ ・柴尾晴信 ² ・孟憲英 ³ ・深津武馬 ¹ (産総研 ¹ ・ゲムファクトリー ¹ ・東大院 ¹ ・総合文化 ² ・産総研 ¹ ・生物機能工学 ³) アブラムシの完全閉鎖ゴールにおいて甘露はどのように処理されるのか?—ゴール内壁による吸水能力の発見—	K302 °佐々木謙 ¹ ・遠藤祐紀 ¹ ・朝岡潔 ² (金沢工大 ¹ ・生命情報 ¹ ・農生研 ²) ショ糖やイノシトールによるカイコ幼虫の飲み込み運動パターンの修飾	L302 °藤條純夫 ¹ ・大塚彰 ² (佐賀大農 ¹ ・九州沖縄農研 ²) 秋における食草域の異なったハスモンヨトウの朝鮮半島から九州への飛来の可能性	09:15
G303 °武田千秋 ¹ ・中川朋美 ¹ ・吉田潔充 ¹ (石原産業株式会社 ¹) 天然物殺虫剤 マハラジャ ^(R) 乳剤 (IKI-0012乳剤) の作用特性に関する研究	H303 °安藤喜一 ¹ (弘前市 ¹) カマキリタマゴカツオブシムシの夏世代はカマキリの孵化済み卵包で育つ	I303 °務川重之 ¹ ・遠山宏和 ¹ (茨城農総セ・生工研 ¹) 天敵糸状菌 <i>Beauveria bassiana</i> のミカンキイロアザミウマに対する病原性	J303 南部由美子 ¹ ・田中裕美 ¹ ・榎章郎 ¹ ・板倉修司 ¹ (近大農 ¹ ・森林生物化学 ¹) RNAiによるヤマトシロアリのヘキサメリン遺伝子の抑制	K303 °高梨琢磨 ¹ ・深谷緑 ² ・久保島吉貴 ¹ ・石田厚 ¹ ・神崎菜摘 ¹ ・中野亮 ³ ・小池卓二 ⁴ ・西野浩史 ⁵ (森林総研 ¹ ・東大院農 ² ・理研 ³ ・電通大 ⁴ ・北大 ⁵) 振動に対するマツノマダラカミキリの反応性とマツの「自己」振動の特性	L303 °山家有理 ¹ ・佐藤智 ¹ ・安田弘法 ¹ (山形大農 ¹ ・動物生態 ¹) 水田の多様な生物の機能 1. マルタニシが植物の発生量に及ぼす影響	09:30
G304 °孫立倉 ¹² ・唐常源 ² ・田畑勝洋 ³ ・本山直樹 ¹ (東農大 ¹ ・総研 ¹ ・千葉大院 ¹ ・園 ² ・岐阜森林文化アカデミー ³) 有人ヘリコプターで松林に散布されたフェニトロチオンMCの飛散状況	H304 °武政彰 ¹ ・岡崎真一郎 ¹ (大分農林水産研セ ¹) 大分県北部地域における大豆カメムシ類の発生実態調査	I304 °遠山宏和 ¹ ・務川重之 ¹ (茨城農総セ・生工研 ¹) 天敵糸状菌 <i>Beauveria bassiana</i> のタバココナジラミに対する防除効果に及ぼす湿度の影響	J304 °日室千尋 ¹ ・横井智之 ¹ ・松浦健二 ¹ (岡山大院環境・昆虫生態 ¹) シロアリ卵の揮発性フェロモンの役割—卵への定位と認識のメカニズム—	K304 °深谷緑 ¹ ・西野浩史 ² ・高梨琢磨 ³ (東大院農 ¹ ・森林動物 ¹ ・北大 ² ・電子研 ³ ・森林総研 ³) マツノマダラカミキリの触角「迎え打ち」反応における視覚刺激と振動の協力作用	L304 °佐々木雄悟 ¹ ・佐藤智 ¹ ・安田弘法 ¹ (山形大農 ¹ ・動物生態 ¹) 水田の多様な生物の機能 2. カブトエビの発生に影響を及ぼす要因について	09:45
G305 °太田泉 ¹ ・本多健一郎 ¹ (野菜茶業研究所 ¹) 濃度の異なる蜂蜜や各種糖類を餌として与えた場合のギフアブラバチの生存期間	H305 °寺尾美里 ¹ ・廣瀬謙 ¹ ・新谷喜紀 ¹ (南九州大院 ¹ ・園芸昆虫 ¹) マメハンミョウにおける早熟変態の適応的意義	I305 °島津光明 ¹ ・高務淳 ¹ (森林総研 ¹) マイマイガ幼虫から分離された <i>Isaria javanica</i> について	J305 °横井智之 ¹ ・日室千尋 ¹ ・松浦健二 ¹ (岡大院 ¹ ・環境・昆虫生態 ¹) シロアリ卵の揮発性フェロモンがワーカーによる巣外からの擬似卵運搬率に与える効果	K305 °弘中満太郎 ¹ ・山濱由美 ¹ ・向井裕美 ² ・堀口弘子 ¹ ・針山孝彦 ¹ (浜松医大 ¹ ・生物 ¹ ・佐賀大 ² ・農 ²) チャバネアオカメムシの複眼特性とその走光性にみられる波長及び高度選択性	L305 °大川純司 ¹ ・佐藤智 ¹ ・安田弘法 ¹ (山形大 ¹ ・農 ¹) ジャガイモ畑のオオニジュウヤホシテントウとワタアブラムシの種間相互作用について	10:00

3月28日(日) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
10:15	A306 °長坂幸吉 ¹ ・尾島一史 ² ・田中和夫 ³ (農研機構・中央農研 ¹ ・農研機構・近中四農研 ² ・農研機構・九州農研 ³) アブラナ科野菜の害虫に対する各種目合いの防虫ネットによる侵入阻止効果	B306 °桑原大樹 ¹ ・西松哲義 ¹ ・児玉洋 ¹ (日本農業(株)) 新規殺虫剤フルベンジアミド(フェニックスR)に関する研究(第10報) 長期効果持続性についての標的害虫の生態面からの一考察	C306 °吉沢栄治 ¹ ・金子政夫 ¹ ・渡邊奈央 ¹ (長野県果樹試験場) リンゴ園におけるトビハマキの発消長と有効積算温度	D306 °園田昌司 ¹ ・吉田英哉 ¹ ・泉洋平 ¹ (岡山大・資生研) 農業に有用な生物多様性の指標の開発—防除圧の異なる温暖低地モモ園における生物多様性調査—	E306 °星野啓太 ¹ ・岩淵喜久男 ¹ (農工大・応用昆虫) プドウトラカミキリ血液細胞の変態期における変化とその内分泌誘導機構	F306 °荒川良 ¹ ・竹内真梨子 ¹ ・友田真文 ² ・児玉梨花 ² ・中平賢吾 ² ・伊藤柱 ² (高知大・農・JSTサテライト高知) 土着天敵クロヒョウタンカスミカメの飼育におけるブラインシュリンプ耐久卵の有効性
10:30	A307 櫻井玄 ¹ ・高木正見 ¹ ・上野高敏 ¹ ・高田裕司 ² ・寺本健 ² ・松尾和敏 ² ・柏尾具俊 ³ (九大院農・生防研 ¹ ・長崎農技セ ² ・九州沖縄農研 ³) 諫早湾干拓地における野菜類主要害虫の減農薬防除技術の開発(1) 春ジャガイモを加害するアブラムシ類に対するオオムギのバンカープラントとしての効果	B307 森本輝一 ¹ ・石井俊彦 ¹ ・杉井信次 ¹ (シンジェンタジャパン) 新規殺虫・殺ダニ剤アバメクチンの生物学的特性III(コナジラミ類に対する効果)	C307 °衛藤友紀 ¹ ・緒方和裕 ¹ ・山口純一郎 ² ・松永禎史 ³ (佐賀農技防セ ¹ ・佐賀農試セ ² ・サンケイ化学 ³) 西南暖地におけるフタオビコヤガの誘殺消長と年間発生世代	D307 °小澤朗人 ¹ ・内山徹 ¹ ・豊島真吾 ² (静岡茶研センター ¹ ・農研機構果樹研 ²) 農業に有用な生物多様性の指標の開発: 茶樹におけるカブリダニ類の多様性—茶園でチリカブリダニを発見!?!—	E307 °菊田真吾 ¹² ・黄川田隆洋 ² ・萩原優香 ² ・中島信彦 ² ・野田博明 ¹² (東大院・新領域・生物研 ³) 飢餓状態において脂肪体で発現するトビロウカ糖トランスポーターNIGLUT11の生理的意義	F307 °佐藤正義 ¹ ・大野和朗 ¹ (宮崎大・農) タバコカスミカメの発育および繁殖に及ぼす植物質餌と動物質餌の効果
10:45	A308 °高田裕司 ¹ ・柏尾具俊 ² ・寺本健 ² ・松尾和敏 ² ・高木正見 ³ ・櫻井玄 ³ (長崎農技セ ¹ ・九州沖縄農研 ² ・九大院農・生防研 ³) 諫早湾干拓地における野菜類主要害虫の減農薬防除技術の開発(2) 葉菜類における黄色灯照射を組み入れた減農薬散布体系	B308 °諏訪明之 ¹ ・坂田和之 ¹ ・西松哲義 ¹ ・山口力雄 ¹ (日本農業(株)) 新規昆虫行動制御剤ピリフルキナゾン(コルト)に関する研究(第3報) コナジラミ類に対する作用特性	C308 °小出哲哉 ¹ ・山口和広 ¹ ・大野徹 ¹ ・森本健次 ¹ (愛知農総試) 愛知県におけるミナミアオカメムシの発生とダイズの被害状況	D308 °内山徹 ¹ ・小澤朗人 ¹ (静岡茶研センター ¹) 農業に有用な生物多様性の指標の開発「防除圧の異なる茶園におけるクモ類の多様性」	E308 °徳田岳 ¹ ・宮城美生 ¹ (琉球大・熱生研) 大腸菌によるタカサゴシロアリβ-グルコシダーゼ発現系の構築とポリクローナル抗体の作製	F308 °伊藤政雄 ¹ ・三浦一芸 ² ・渡部真也 ³ ・渡辺衛介 ⁴ (高知農技セ ¹ ・近中四農研・広島大院・生物園 ² ・広島大院・生物園 ³ ・広島大院・生物園 ⁴) 分子生物学的手法を用いた圃場におけるタバコカスミカメの捕食歴調査
11:00	ポスター					
12:00						

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G306 °木村澄 ¹ ・芳山三喜雄 ¹ ・門脇辰彦 ² ・齋藤佳奈 ³ ・岩田洋佳 ⁴ (畜草研 ¹ ・みつばちG ¹ ・名大院 ¹ ・生命農 ² ・筑波大 ³ ・生物資源 ³ ・中央農研 ⁴ ・農業情報 ⁴) 養蜂ミツバチ群の季節的消長 I	H306 藤山みどり ¹ ・太田晃平 ¹ ・中村圭司 ¹ (岡山理大 ¹) トビイロケアリ女王における数ヶ月周期の産卵 1. 働きアリの成長との関係	I306 °佐藤大樹 ¹ ・伴さやか ² ・升屋勇人 ³ ・細矢剛 ⁴ (森林総研九州 ¹ ・NBRC ² ・森林総研 ³ ・科博 ⁴) 小林義雄博士によって記載されたチョウ目に寄生するCordycepsのタイプ標本	J306 °佐山勝彦 ¹ ・小坂肇 ² ・牧野俊一 ³ (森林総研北海道 ¹ ・森林総研九州 ² ・森林総研 ³) 寄生線虫に操られるキイロスズメバチ女王	K306 °遠藤信幸 ¹ (九州沖縄農研 ¹) ミナミアオカメムシおよびアオクサカメムシのライトトラップへの誘引特性	L306 °吉野朋子 ¹ ・神戸崇 ² ・秋元信一 ² (北大農 ¹ ・昆虫体系 ¹ ・北大農院 ¹ ・昆虫体系 ²) 異なる寄主レースに属するエンドウヒゲナガアブラムシ <i>Acyrtosiphon pisum</i> のクローンとそれらのhybridが示すマメ科植物への適応様式	10:15
G307 °松尾和典 ¹ ・喜久村智子 ² ・大野豪 ² ・湯川淳一 ³ (九大院 ¹ ・生資環 ¹ ・昆虫 ¹ ・沖縄農研 ² ・九大 ³) <i>Feltiella</i> 属ハダニ捕食性タマバエ類 (ハエ目: タマバエ科) に寄生する <i>Aphanogmus</i> 属未記載種 (ハチ目: ヒゲナガクロバチ科) の発見	H307 °黒木出 ¹ ・中村圭司 ¹ (岡山理大 ¹) トビイロケアリ女王における数ヶ月周期の産卵 2. 生物時計関与の可能性	I307 °相場厚輝 ¹ ・畠山吉則 ¹ ・岩野秀俊 ¹ (日本大学生物資源 ¹) RAPD PCRによる微胞子虫 <i>Nosema bombycis</i> 系統間のゲノム比較	J307 °齋藤歩希 ¹ ・小島純一 ² ・川村緯気 ² (茨城大 ¹ ・教育 ¹ ・茨城大 ²) 線虫に寄生されたホソアシナガバチ (Parapolybia)	K307 °眞壁敏明 ¹ ・川嶋幸喜 ¹ ・青木隆 ¹ ・村井保 ² ・内田達清 ³ ・若桑基博 ⁴ ・蟻川謙太郎 ⁴ (神奈川農技セ ¹ ・根府川 ¹ ・宇都宮大 ² ・パナソニック電工 ³ ・総研大 ⁴) アザミウマ類における複眼分光感度と走光性作用スペクトルとの関係及びハウスミカン果皮障害への紫外線の影響	L307 °八尾泉 ¹ (北大農 ¹ ・昆虫体系 ¹) 系統関係を考慮した <i>Tuberculatus</i> 属内アリ共生型アブラムシの翅面積/体サイズ	10:30
G308 °徳田誠 ¹ ・湯川淳一 ² (九大 ¹ ・高推セ ¹ ・九大 ²) バラハオレタマバエ (ハエ目: タマバエ科) の分類学的地位	H308 °野田隆志 ¹ ・川崎建次郎 ¹ (農生研 ¹) 寄主昆虫の性フェロモン成分を誘引源としたトラップによる卵寄生蜂のモニタリング	I308 °畠山吉則 ¹ ・小田尚幸 ¹ ・角田遼平 ¹ ・井村善之 ¹ ・前田孚憲 ¹ ・TRAN VANHAI ² ・岩野秀俊 ¹ (日大生物資源 ¹ ・CAN THO UNIV. ²) ベトナム産ハスモンヨトウから分離された微胞子虫株の系統分類学的解析	J308 °石川善大 ¹ ・山田佳廣 ¹ ・松浦誠 ¹ (三重大院 ¹ ・生資 ¹ ・昆虫 ¹) ヤマトアシナガバチの女王はワーカーの行動を制御しているのか?	K308 °近藤勇介 ¹ ・中秀司 ² ・土田浩治 ¹ (岐阜大 ¹ ・昆虫生態 ¹ ・鳥取大 ² ・害虫制御 ²) <i>Amata</i> 属の配偶行動における視覚刺激の重要性 ~見た目は重要? ~	L308 °西一郎 ¹ (山口農総技セ柑きつせ ¹) ミカンバエの生育に及ぼす幼虫飼料の影響	10:45
ポスター						11:00 12:00

13:00	ポスター
13:30	ポスター賞授与式

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
14:00	A309 [○] 三代浩二 ¹ ・外山晶敏 ¹ ・檜垣守男 ¹ ・高木一夫 ¹ ・井原史雄 ¹ ・足立礎 ² (農研機構・果樹研 ¹ ・農研機構・近中四農研 ²) ナシ園におけるカバープランツの被覆と天敵類の発生消長の変化	B309 [○] 下川床康孝 ¹ ・佐藤直樹 ¹ (住友化学 ¹) 新規殺虫剤スピネトラム(ディアナ [®])によるリンゴ寄生鱗翅目害虫の防除	C309 [○] 平江雅宏 ¹ ・関和孝博 ² (中央農研・北陸研セ ¹ ・栃木県農業大学校 ²) 水田におけるイナズマヨコバイの発生と被害	D309 [○] 河野勝行 ¹ ・飯田博之 ¹ ・本多健一郎 ¹ (野菜茶研・野菜IPM ¹) 農業に有用な生物多様性の指標の開発: 本州温暖地キャベツほ場における環境保全型農法と関連した生物多様性の指標生物の選抜...2009年春作キャベツの結果	E309 [○] 沼田英治 ¹ ・池野知子 ² ・後藤慎介 ² (京大・院理 ¹ ・大阪市大・院理 ²) 概日時計遺伝子はホソヘリカメムシの光周性において決定的な役割を果たす	F309 [○] 山本希枝 ¹ ・柿元一樹 ² ・中尾知子 ² ・大野和朗 ¹ (宮崎大・農 ¹ ・鹿曾於畑かん ²) 施設ピーマンにおけるカブリダニ類の種構成と天敵および害虫の密度推移
14:15	A310 [○] 城田安幸 ¹ ・菅野清孝 ¹ ・斎藤礁 ¹ (弘前大・農学生命) 無農薬りんご園の害虫管理(6) 4年間農薬が散布されていないりんご園と隣接する慣行防除区における鱗翅目害虫の発生状況	B310 [○] 坂本えみ子 ¹ ・岩田淳 ¹ (住友化学 ¹) クロチアニジン粒剤(ダントツ粒剤)のカンショのコガネムシ類に対する効果(3)	C310 [○] 菊地淳志 ¹ (近中四農研 ¹) カメムシ種によるダイズの青立ち被害発生の違い-その1-	D310 [○] 西野実 ¹ ・北上達 ¹ (三重農研 ¹) 農業に有用な生物多様性の指標の開発 水田転換畑等キャベツほ場における環境保全型農法と関連した指標生物の選抜	E310 [○] 小滝豊美 ¹ ・品田哲郎 ² ・貝原加奈子 ² ・大船泰史 ² ・沼田英治 ³ (農生研 ¹ ・大阪市大・院理 ² ・京大・院理 ³) JHSB ₃ のホルモンとしての生物学的機能の検証	F310 [○] 岡崎真一郎 ¹ ・吉松英明 ¹ ・桃下光敏 ² ・柏尾具俊 ² (大分農林水産研セ ¹ ・アリスタ ²) 夏秋ピーマン栽培におけるスワルスキーカブリダニ放飼による定着状況とミカンキイロアザミウマに対する密度抑制効果
14:30	A311 [○] 柳沼勝彦 ¹ ・新井朋徳 ¹ ・豊島真吾 ¹ (果樹研・リンゴ ¹) リンゴの自然栽培園における害虫発生とその被害	B311 [○] 吉村具子 ¹ ・森本信生 ² (山形農研セ ¹ ・中央農研セ ²) フタオビコヤガに対する各種殺虫剤の防除効果	C311 [○] 水井陽介 ¹ ・杉山恵太郎 ¹ ・山家一哲 ² (静岡防除所 ¹ ・静岡中遠農林 ²) フェロモントラップ及びバンドトラップを用いたフジコナカイガラムシの防除適期の調査	D311 [○] 中野昭雄 ¹ ・須見綾仁 ¹ ・阿部成人 ¹ (徳島農総技セ ¹) 農業に有用な生物多様性指標の開発 徳島県の露地ナス圃場における生物多様性の指標生物の選抜(2008年の調査結果)	E311 [○] 神村学 ¹ ・豊田衣子 ¹ ・上野千尋 ¹ ・木内信 ¹ (農業生物資源研 ¹) 脱皮ホルモン分解酵素を利用したオオワタノメイガ幼虫の休眠誘導	F311 [○] 松本真希 ¹ ・山本樹 ¹ ・糸山享 ¹ ・山中聡 ² (明治大農・応用昆虫 ¹ ・アリスタライフサイエンス ²) スワルスキーカブリダニとタイリクヒメハナカメムシは併用できるか?(1)スワルスキーカブリダニの餌選好性
14:45	A312 [○] 高梨祐明 ¹ ・土師岳 ¹ ・足立嘉彦 ¹ ・豊島真吾 ² ・新井朋徳 ² ・柳沼勝彦 ² (東北農研・省農薬リンゴ ¹ ・果樹研・省農薬リンゴ ²) 複合交信攪乱剤を使い農薬を半減した体系のリンゴ主要害虫に対する防除効果	B312 [○] 広瀬拓也 ¹ (高知農技セ ¹) 施設栽培葉ジソ(オオバ)に発生するマデイラコナカイガラムシに対する微生物農薬および気門封鎖型薬剤の効果	C312 [○] 高橋良知 ¹ ・菊池英樹 ¹ ・中村智幸 ² (秋田農技セ農試 ¹ ・秋田防除所 ²) 秋田県のダイズにおけるウコンノメイガの要防除水準と防除適期の検討	D312 [○] 亀代美香 ¹ ・中野昭雄 ¹ ・阿部成人 ¹ ・須見綾仁 ¹ (徳島農総技セ ¹) 農業に有用な生物多様性指標の開発 徳島県の露地ナス圃場における生物多様性の指標生物の選抜(2009年の調査結果)	E312 [○] 向井康夫 ¹ ・石井実 ² (京大・地環 ¹ ・大阪府大院・生環 ²) オオコオイムシ越冬成虫の耐寒性	F312 [○] 山本樹 ¹ ・松本真希 ¹ ・糸山享 ¹ ・山中聡 ² (明治大農・応用昆虫 ¹ ・アリスタライフサイエンス ²) スワルスキーカブリダニとタイリクヒメハナカメムシは併用できるか?(2)餌選好性の違いとギルド内捕食の可能性

ポスター

13:00

ポスター賞授与式

13:30

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G309 [○] 井手竜也 ¹ ・阿部芳久 ¹ (九大院・比文 ¹) 進士博士によって記載された、クヌギの雄花にゴールを作る <i>Andricus</i> 属のタマバチ(膜翅目:タマバチ科) 2種の分類学的再検討	H309 [○] 梶村恒 ¹ ・小角隆文 ² ・伊藤昌明 ¹ ・軸丸祥大 ³ (名大院生命農・森林保護 ¹ ・名大農生物環境・森林保護 ² ・広島総技研農技セ・果樹研 ³) イチジク樹に穿孔するアイノキクイムシの分布域と系統	I309 [○] 柳川綾 ¹² ・辻井直 ³ ・秋野順治 ⁴ ・吉村剛 ¹ ・角田邦夫 ¹ ・今村祐嗣 ¹ ・清水進 ⁵ (京大 ¹ ・学振 ² ・農生研 ³ ・京工繊 ⁴ ・九大 ⁵) イエシロアリ, <i>Coptotermes formosanus</i> の集団内における異物認識	J309 [○] 久保良平 ¹ ・小野正人 ¹ (玉川大・院・昆虫機能 ¹) マルハナバチ女王の造巣場所の選好性を利用したクマガイソウの受粉戦略	K309 [○] 上船雅義 ¹ ・高林純示 ¹ (京大・生態研センター ¹) 寄生蜂の異なる光波長に対する反応-空腹度と嗅覚的キューの影響	L309 [○] 守屋成一 ¹ ・石川忠 ² ・杉江元 ³ ・上里卓己 ⁴ ・安藤緑樹 ⁵ ・山口綾子 ⁶ ・白玉敬子 ⁷ (中央農研 ¹ ・東京農大 ² ・農環研 ³ ・沖縄防技センター ⁴ ・沖縄防技セ・八重山 ⁵ ・沖縄防技セ・宮古 ⁶ ・八重山振興セ・与那国 ⁷) 南西諸島におけるチャバネアオカメムシ属の再検討と種間関係の解明	14:00
G310 [○] 和智伸是 ¹ ・阿部芳久 ² (九大院・システム生命 ¹ ・九大院・比文 ²) クリマモリオナガコバチ(膜翅目:オナガコバチ科)の在来寄主候補ハコネナラタマバチ(膜翅目:タマバチ科)の両性世代の記載と分類学的検討	H310 [○] 神保克明 ¹ ・久保田耕平 ² ・キクビツエザール ¹ (東大院・新領域 ¹ ・東大院・農 ²) 富士山噴火後の植生遷移系列と地表徘徊性甲虫群集の分布	I310 [○] 小田尚幸 ¹ ・畠山吉則 ¹ ・岩野秀俊 ¹ (日本大学生物資源 ¹) ゲノムプロファイリングを用いた <i>Bacillus thuringiensis</i> 群の系統学的解析	J310 [○] 西出雄大 ¹ ・渡辺賢太 ¹ ・佐藤俊幸 ¹ ・岩淵喜久男 ¹ (東京農工大・応用昆虫 ¹) アミエアリにおける他コロニー個体との共存が巣仲間認識に与える影響	K310 [○] 香川理威 ¹ ・兼松真 ¹ ・杉浦正昭 ¹ (フマキラー 開発・基礎研 ¹) 明るさの変化がキイロショウジョウバエの色選好に及ぼす影響	L310 [○] 河津圭 ¹ ・天野裕太 ²³ ・瀬尾茂美 ² ・佐藤幸恵 ¹⁴ ・菅野亘 ¹ ・望月淳 ¹ ・朽津和幸 ³ ・後藤千枝 ³ ・大橋祐子 ² ・光原一朗 ² (農環研 ¹ ・生物資源研 ² ・東京理科大 ³ ・JSPS ⁴ ・中央農研 ⁵) 病傷害誘導性MAPK経路改変タバコにおけるヨトウガ抵抗性の変化	14:15
G311 [○] 坂巻祥孝 ¹ (鹿児島大・害虫 ¹) キバガ科内の系統推定とソバカスキバガ <i>Gelechia acanthopis</i> の分類学的検討(鱗翅目)	H311 [○] 小路晋作 ¹ ・藤沼聡 ² ・石川忠 ² ・KhanZeyaur ³ ・足達太郎 ⁴ (金沢大・地域連携セ ¹ ・東京農大・農 ² ・ICIPE ³ ・東京農大・国際食料情報 ⁴) ケニアのネビアグラス圃場におけるウンカ・ヨコバイ類の種構成と個体群特性	I311 [○] 石山海嗣 ¹ ・小池正徳 ¹ ・福本晋也 ² ・嘉糠洋陸 ² ・相内大吾 ² (帯広畜大・環境微生物 ¹ ・帯広畜大・原虫病研 ²) ブルキナファソおよび十勝管内における蚊由来昆虫寄生性アナモルフ菌類の探索	J311 [○] 岡本美里 ¹ ・大河原恭祐 ¹ (金沢大・生態学 ¹) ウメマツアリにおける女王の翅多型と繁殖様式の関係について	K311 [○] 竹本裕之 ¹ ・パウエルウィルフ ² ・ピケットジョン ² ・高林純示 ¹ ・戒能洋一 ³ (京大生態研 ¹ ・ロザムステッドリサーチ ² ・筑波大・生命環境 ³) 寄生蜂エルビアブラバチによる寄主被害植物揮発性物質の利用様式	L311 [○] 奥圭子 ¹ ・安田哲也 ¹ (中央農研 ¹) 交尾と齢がアカスジカスミカメ雌成虫の性フェロモン成分量に及ぼす影響	14:30
G312 [○] 伊藤桂 ¹ ・西川洋史 ² ・中平賢吾 ¹ ・児玉梨花 ¹ ・友田真文 ¹ ・島田拓治 ² ・小川浩平 ² ・福田達哉 ² ・荒川良 ² (JSTサテライト高知 ¹ ・高知大・農 ²) クロヒョウタンカスミカメの2系統間における塩基配列変異と生殖和合性	H312 [○] 山下幸司 ¹ ・笠井敦 ² ・吉安裕 ² (京都農技セ・茶研 ¹ ・京都大院・応用昆虫 ²) 京都府におけるミカントゲコナジラミ(チャ系統)の季節的発消長	I312 [○] 齊藤由布奈 ¹ ・刀祢淳也 ¹ ・相内大吾 ² ・小池正徳 ¹ (帯広畜大・環境微生物 ¹ ・帯広畜大・原虫病研 ²) <i>Lecanicillium</i> spp.とコレマンアブラバチ <i>Aphidius colemani</i> の相互関係	J312 [○] 大河原恭祐 ¹ ・岡本美里 ¹ (金沢大・自然科学 ¹) 生活史戦略から見たウメマツアリの単為生殖機構の進化について	K312 [○] 山根隆史 ¹ ・宮竹貴久 ² (中央農研・北陸研研セ ¹ ・岡大院・環境 ²) マメゾウムシ2種においてオス由来成分がメスの産卵に与える効果	L312 [○] 中尾史郎 ¹ ・堀亜寿香 ¹ ・土田聡 ² (京都府大・応用昆虫 ¹ ・果樹研・ブドウカキ ²) 合成ピレスロイド剤に対する抵抗性の異なるネギアザミウマ <i>Thrips tabaci</i> (アザミウマ目:アザミウマ科)の寄主適合性と生活史形質の差異	14:45

3月28日(日)午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
15:00	A313 [○] 早山智博 ¹ ・小島弘昭 ¹ ・東浦祥光 ² ・上里卓己 ³ ・田中宏卓 ⁴ (東京農大・農学 ¹ ・山口農林総セ ² ・沖縄病害虫防セ ³ ・琉球大学・農 ⁴) カンキツ類の害虫タイワンワタカイガラムシ <i>Pulvinaria polygonata</i> (Hemiptera: Coccidae)の奄美諸島・沖縄諸島における分布と寄生蜂相に関する新知見	B313 [○] 小野元治 ¹ (大分農林水産研セ ¹) ニラで採集されたロビンネダニに対する有効薬剤	C313 [○] 柿崎昌志 ¹ ・岩崎暁生 ² ・三宅規文 ² ・斉藤美樹 ³ (北海道道南農試 ¹ ・北海道中央農試 ² ・北海道上川農試 ³) 性フェロモントラップによるアカヒゲホソミドリカスミカメの要防除密度	D313 [○] 佐藤信輔 ¹ ・大野和朗 ¹ ・市川大輔 ¹ ・佐藤正義 ¹ ・山本希枝 ¹ (宮崎大・農 ¹) 農業に有用な生物多様性の指標の開発-西南暖地ナス圃場における指標生物選抜-	E313 [○] 泉洋平 ¹ ・片桐千仞 ² ・園田昌司 ¹ (岡山大・資生研 ¹ ・北大・低温研 ²) ニカメイガ越冬幼虫の乾燥耐性	F313 [○] 佐々木正剛 ¹ ・穴澤拓未 ¹ ・高野靖洋 ² (福島農総セ果樹研 ¹ ・福島会津農林 ²) リンゴ園における土着カブリダニと放飼カブリダニを利用したハダニ類防除
15:15	A314 [○] 片山晴喜 ¹ ・増井伸一 ² ・土屋雅利 ² (静岡防除所 ¹ ・静岡農林研 ²) カンキツ園の防風樹におけるハダニ天敵類の発生について	B314 [○] 中西友章 ¹ ・兼田武典 ¹ (徳島県果樹研究所 ¹) ナシに寄生するヒメボクトウに対する殺虫剤の効果	C314 [○] 土井誠 ¹ ・斉藤千温 ¹ ・加藤光弘 ¹ ・神谷径明 ² ・中野亮平 ² (静岡防除所 ¹ ・静岡志太農林 ²) 静岡県におけるイネ縞葉枯病とヒメトビウンカの多発原因	D314 [○] 大井田寛 ¹ ・内野憲 ¹ (千葉農林総研 ¹) 農業に有用な生物多様性の指標の開発 千葉県の露地栽培ネギ圃場における指標種の選抜	E314 [○] 中原雄一 ¹² ・今西重雄 ¹ ・光増可奈子 ¹ ・金森保志 ¹³ ・岩田健一 ¹⁴ ・渡邊匡彦 ¹ ・黄川田隆洋 ¹ ・奥田隆 ¹ (農生研 ¹ ・帝京大医 ² ・京都工繊大 ³ ・国立がんセンター ⁴) ネムリユスリカの細胞は in vitroでの乾燥に耐える	F314 [○] 屋良佳緒利 ¹ ・笹脇彰徳 ² ・松尾和典 ³ (農環研 ¹ ・長野県 ² ・九大院・昆虫 ³) 長野県のチュウゴクオナガコバチ放飼地におけるチュウゴクオナガコバチと近縁土着寄生蜂の遺伝的相互作用
15:30	A315 [○] 山岸正明 ¹ (沖縄病害虫セ ¹) 台湾から輸入したウリミバエ野生集団の選抜経過	B315 [○] 江崎功二郎 ¹ (石川県林試 ¹) MEP 2回散布によるカシノナガキクイムシの穿入防止効果	C315 Huang S-H ¹ ・Cheng C-H ¹ ・Chen C-N ² ・Wu W-J ² ・大塚彰 ³ (嘉義農試 ¹ ・台湾大 ² ・九州沖縄農研 ³) 台湾におけるトビイロウンカ・セジロウンカの飛来源推定	D315 [○] 増井伸一 ¹ ・芳賀一 ¹ ・万年潤哉 ¹ ・内山徹 ¹ (静岡農林研 ¹) 農業に有用な生物多様性の指標の開発 静岡県の環境保全型シロネギ圃場に発生する土着天敵	E315 [○] 植村紗矢子 ¹ ・糸山享 ¹ (明治大院農・応用昆虫 ¹) アカヒゲホソミドリカスミカメにおける異なる日長条件下の卵巣発育とピテロジェニンmRNAの発現動向	F315 [○] 志賀正和 ¹ ・外山晶敏 ¹ ・井原史雄 ¹ (果樹研 ¹) チュウゴクオナガコバチ放飼後27年間のクリタマバチの個体数変動の特徴
15:45		B316 [○] 羽田厚 ¹ (岩手農研セ・環境部 ¹) 岩手県内数地点のリンゴ園地で採取したナミハダニ個体群の新規殺ダニ剤に対する感受性モニタリング	C316 [○] ロ木文孝 ¹ ・井手洋一 ¹ ・近藤知弥 ¹ (佐賀果試 ¹) 開花期のカンキツに飛来したミナミトゲヘリカメムシ	D316 [○] 小野亨 ¹ (宮城古川農試 ¹) 農業に有用な生物多様性の指標の開発-寒冷地のダイズにおける環境保全型農法と関連した生物多様性の指標生物の選抜	E316 [○] 加藤義臣 ¹ ・八木孝司 ² ・上遠岳彦 ³ (東大院農・生命多様性科学 ¹ ・大阪府大・先端科学 ² ・国際基督教大・生命科学 ³) ホソオチョウの卵成熟はエクジステロイドにより誘起される	F316 [○] 浦野忠久 ¹ ・金崎秀司 ² (森林総合研究所 ¹ ・愛媛農水研果樹研セ ²) 捕食寄生性昆虫サビマダラオオホソカタムシのゴマダラカミキリに対する予備的放飼試験

小集会						
16:15			侵略的外来昆虫問題 その2:植物防疫の現在と未来	導入天敵から侵略的外来種へ:ナミテントウがもたらすリスク	新害虫の発生生態およびその適応戦略	新規天敵スワルスキーカブリダニの利用について~実場面での使用状況と新たな普及の可能性を考える~
19:15						

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G313 °土`田聡 ¹ ・望月雅俊 ¹ ・広瀬拓也 ² ・垣内加奈子 ² ・兒玉博聖 ³ ・貴島圭介 ⁴ (果樹研・ブドウカキ・高知農技セ ² ・沖縄防技セ ³ ・沖縄農研セ ⁴) 寄生性の異なるチャノキイロアザミウマの遺伝的特性	H313 °上杉龍士 ¹ ・佐藤安志 ¹ ・大泰司誠 ¹ (野茶研金谷 ¹) 日本で分布拡大するチャ系統ミカントゲコナジラミの遺伝的変異	I313 °中川奈穂子 ¹ ・相内大吾 ² ・増田俊雄 ³ ・小池正徳 ¹ (帯広畜大・環境微生物・帯広畜大・原虫病研 ² ・宮城農園研 ³) 北海道における昆虫寄生性糸状菌 <i>Beauveria bassiana</i> および <i>Lecanicillium</i> 属菌を用いたコナガ <i>Plutella xylostella</i> に対する微生物防除法の検討	J313 °赤坂真也 ¹ ・佐々木謙 ¹ ・長尾隆司 ¹ ・原野健一 ² (金沢工大院・バイオ ¹ ・農生研大わし・バタ研究室 ²) ミツバチ雄においてドーパミンは交尾飛行を促進させる	K313 °福井昌夫 ¹ (京大院農・昆虫生理) 環境温度の変化に伴う求愛歌の変動に対するコオロギ雌の反応	L313 °近森ちさこ ¹ ・中尾史郎 ¹ ・奈良井祐隆 ² (京大院農・応用昆虫 ¹ ・島根農技セ ²) 日本に侵入した <i>Frankliniella fusca</i> (Hinds) (アザミウマ目:アザミウマ科) の翅型決定に温度, 光周期および食餌植物が及ぼす影響	15:00
G314 °松本由記子 ¹ ・松村正哉 ² ・星崎杉彦 ³ ・佐藤友紀 ¹ ・野田博明 ¹ (生物研 ¹ ・九州沖縄農研 ² ・東大農 ³) イネウンカ類に寄生するエダヒゲネジレバネ <i>Elenchus japonicus</i> には3つのタイプが存在する	H314 °岸田彬 ¹ ・笠井敦 ² ・吉安裕 ² (京府大農・応用昆虫 ¹ ・京府大院・応用昆虫 ²) ミカントゲコナジラミ (チャ系統) におけるシルベストリコバチの産卵と寄主体液摂取行動	I314 °宮田將秀 ¹ ・山中聡 ² ・原田幸治郎 ² (宮城農園研 ¹ ・アリストライフサイエンス(株) ²) アザミウマ類に対する昆虫病原糸状菌製剤と化学合成農薬の混用による防除効果	J314 °吉田忠晴 ¹ ・西谷慶太 ² (玉川大・ミツバチ科学 ¹ ・玉川大農・昆虫機能 ²) 樹冠上部でのニホンミツバチ女王蜂と雄蜂の交尾行動	K314 °山村聖 ¹ ・佐々木正己 ¹ (玉川大・農院・応用昆虫 ¹) 高山性アルプスギンウワバと周極性ホクトギンウワバ2種の日周活動の特性	L314 田中誠二 ¹ ・原野健一 ¹ ・前野浩太郎 ¹ (農生研大わし ¹) サバクトビバッタの相変異: 幼虫の黒化は警戒色か?	15:15
G315 石渡啓介 ¹ ・魚住太郎 ¹ ・佐々木剛 ² ・宮田隆 ² ・蘇智慧 ¹² (京大院理・生物 ¹ ・JT生命誌研究館 ²) 複数の核タンパク遺伝子による鰓脚類の系統解析	H315 °笠井敦 ¹ ・山下幸司 ² ・吉安裕 ¹ (京府大院・応用昆虫 ¹ ・京都農技セ・茶研 ²) ミカントゲコナジラミ (チャ系統) はカンキツを利用しない	I315 °山田溪花 ¹ ・山口拓也 ¹ ・佐原健 ¹ ・伴戸久徳 ¹ ・浅野眞一郎 ¹ (北大院農・応分昆 ¹) ハムシ類に対するCry8トキシンの殺虫活性およびプロセッシング様式	J315 °井上真紀 ¹ ・五箇公一 ¹ ・伊藤文紀 ² (環境研 ¹ ・香川大・農 ²) 侵略的外来種アルゼンチンアリのスーパーコロニー間における闘争関係	K315 °和田節 ¹ ・松倉啓一郎 ¹ (九州沖縄農研 ¹) スクリングガイの低温致死温度	L315 °前野浩太郎 ¹² ・田中誠二 ¹ (農生研大わし ¹ ・バタ研究室 ² ・学振PD ³) サバクトビバッタの相変異: 群生相卵の人為的小型化による孤独相形質の誘導	15:30
G316 °石渡啓介 ¹ ・佐々木剛 ² ・宮田隆 ² ・蘇智慧 ¹² (京大院理 ¹ ・JT生命誌研究館 ²) タンパク質をコードする複数の核遺伝子による昆虫類の系統解析	H316 °上宮健吉 ¹ ・上田重文 ² ・笠井敦 ³ ・山下幸司 ⁴ ・佐藤安志 ⁵ ・吉安裕 ³ (久留米大・比文研 ¹ ・九州沖縄農研 ² ・京都府大院・生命環境 ³ ・京都農技セ・茶研 ⁴ ・野菜茶研金谷 ⁵) 茶の新害虫チャトゲコナジラミ(新称)とミカントゲコナジラミの分類学的検討	I316 °横山とも子 ¹ ・伊東靖之 ¹ ・加藤正広 ¹ (千葉農林総研 ¹) 芝草における乳化病菌製剤の処理方法の検討	J316 °諸岡史哉 ¹ ・五箇公一 ² ・井上真紀 ² ・山根爽一 ¹ (茨城大・教育 ¹ ・国環研 ²) 特定外来生物アルゼンチンアリの防除リスク	K316 °井濃内順 ¹ (農業生物資源研究所 ¹) ゴキブリの匂い定位行動の発現機構: 下降性神経細胞と胸部運動系の匂い応答	L316 °原野健一 ¹ ・田中誠二 ¹ ・前野浩太郎 ¹ ・渡康彦 ² ・齋藤治 ² (農生研大わし ¹ ・バタ研究室 ¹ ・声屋大・臨床教育 ²) トノサマバッタとサバクトビバッタ1齢幼虫の活動性に見られる相変異: 母性効果の比較	15:45

小集会						
殺虫剤作用機構談話会(故河野義明教授追悼記念シンポジウム)	アリをめぐる生物種間の相互作用	生態系に対する昆虫の役割	水田生物多様性に対する苗箱処理剤の影響評価の総合的考察	生物間相互作用の情報科学 その7~ガの性フェロモン研究の50年とこれから		16:15
						19:15